

4 日英東京会談(二) 具体的問題に関する協議と会談の決裂

1566

昭和14年7月24日

有田外務大臣より
在天津田代総領事宛(電報)

天津租界問題の具体的事項に関する日英会談
開始について

別電 昭和十四年七月二十四日発有田外務大臣より

在天津田代総領事宛第二六六号

日本側が提示した十二項目

本省 7月24日後9時30分発

第二六五號

二十四日午前九時ヨリ加藤公使(現地軍側代表田中領事及係官同席)及「クレীগー」(「ハーバート」領事及「ピゴット」武官等出席)トノ間ニ天津問題ニ關シ討議シタルガ先ツ公使ヨリ別電第二六六號ノ提案ヲ提出シ之ヲ説明シタル處「クレীগー」ヨリ右ニ付テハ何レ意見ヲ申シ上クベキモ思ヒ付キトシ英國側トシテハ日本軍ノ責任及必要ハ充分了解シ居リ從テ誠意ヲ以テ協力スベキヲ以テ不必要ニ會

談ヲ困難ナラシムルガ如キコトハ避ケラレ度且英國側トシテハ日本側ガ租界ニ對スル英國側「オソリチー」ト利益ヲ破壊セラルルガ如キ意圖ヲ有セザルコトヲ希望スル旨述べタリ會談ハ午後四時ヨリ續行セラルル豫定ナリ
別電ト共ニ英、北京、青島、上海、南京、廣東、香港へ轉電セリ

(別電)

本省 7月24日發

第二六六號

一、抗日共產分子ヲシテ英租界ヲ利用セシメサル爲抗日共產分子ノ取締及抗日犯人ノ搜查逮捕ニ付日本憲兵ハ英租界内ニ於テ英租界警察當局ト共同シテ所要ノ措置ヲ執リ且白河ヲ航行スル船舶ヲ臨檢スルヲ得ルコト
二、英租界内ニ於テ逮捕セラレタル抗日共產犯人及被疑者ハ直ニ日本軍憲又ハ現地支那官憲ニ引渡スコト

- 三、英租界工部局警察ニ日本軍連絡將校ヲ置クコト
- 四、英租界警察當局力使用中ノ抗日的職員ヲ罷免スルコト
- 五、英租界内支那人犯人ノ搜查逮捕ニ付現地支那官憲ヨリ申出アリタル時ハ英租界警察當局ハ右支那官憲ノ派遣員ト共同シテ搜查逮捕ニ當ルコト
- 六、租界内ニ於テ逮捕セラレタル支那法令違反ノ犯人ハ之ヲ現地支那官憲ニ引渡スコト
- 七、(イ)抗日共産分子ヲシテ租界ヲ利用セシメサルコト
(ロ)抗日共産的施設、言動及文書等ヲ禁止スルコト
- 八、英租界警察ニ留置セラレ居ル抗日犯人ハ日本軍官憲又ハ現地支那官憲ニ引渡スコト
- 九、英租界内ニ於ケル「法幣」ノ流通ヲ禁止スルコト
- 十、京津兩市現銀管理委員會保管ノ現銀ハ租界外ニ輸出セシムルコト
- 二、現地支那官憲又ハ中國聯合銀行ニ依ル英國租界内ニア
ル支那銀行、銀號、錢舗ノ取締搜查ニ干渉セサルコト
- 三、經濟的事項ニ關シ租界内ニ於ケル取締及搜查ニ付現地
日本軍及支那官憲ト協力スルコト



1567

昭和14年7月24日

有田外務大臣より
在天津田代総領事宛(電報)

天津租界問題日英会談における治安問題の協
議状況について

本省 7月24日発

第二六七號

往電第二六五號ニ關シ

二十四日午后引續キ會談ヲ續行治安問題ニ關スル細目討議
ニ移リタルガ具体的結論ニ到達スルコトナク一應散會、明
二十五日より現地係官間ニ於テ治安關係問題ニ付(イ)天津英
租界及支那當局間ニ現在實行セラレ居ル「プロセデユア」
如何(ロ)右ヲ日本側ハ軍ノ必要ヨリ何ノ程度ニ變更シ度キ意
向ナリヤノ二點ヲ具体的ニ檢討ノ上右結果ヲ日英兩代表ニ
「リファア」シ更ニ討議ヲ進ムルコトナリ居レリ不取敢
英、北京、上海へ轉電セリ



1568

昭和14年7月26日

有田外務大臣より
在天津田代総領事宛(電報)

天津租界問題日英会談で英国側が中国におけ

る反英運動の取締を申入れについて

付記一 昭和十四年七月二十六日發武藤(章)北支那方面軍參謀副長より北支那方面軍司令部宛電報

反英運動をめぐる對英交渉振り請訓

二 昭和十四年七月二十八日發北支那方面軍司令部より武藤北支那方面軍參謀副長宛電報

右回訓

三 昭和十四年八月三日付在本邦クレーギー英國大使より有田外務大臣宛半公信要訳

中国における反英運動停止方要請

本省 7月26日發

第二七三號

往電第二六七號 (開クレーギー)

二十五日行ヒタル日英双方係官研究ノ結果ニ基キ二十六日加藤公使ト「クレーギー」ヲ中心ニ治安維持ニ關スル事項ニ付討議ヲ續行シタルガ日本憲兵ヲ租界内ニ入ルコトニ關スル説明ニ對シ英側ヨリ租界警察官ノ志氣ニ及ホス影響ヲモ考慮ニ入レラレ度キ旨述べ又將來ノ犯罪人引渡手續ニ關シ討議スル所アリタリ、往電第二六六號一ノ白河ヲ航行

スル船舶ノ臨檢ノ問題ハ英側ヨリ英租界碼頭ニ於テ充分檢査アリ度旨申出アリタルヲ容レ撤回セリ

尙會談ノ終リニ「クレーギー」ヨリ支那ニ於ケル排日運動ニ關シ申入ルル所アリタルガ加藤公使ヨリ右問題ニ關シテハ會談ガ更ニ進行シタル上明白ニ御答ヘスル機會アルベキ

モ茲ニ帝國軍トシテモ治安維持ノ責任上之ガ直接行動ニ移ラザル様既ニ充分措置シ居ル次第ヲ明カニシ得ル旨應酬シ置キタリ

會談ハ引キ續キ二十七日續行ノ豫定

北京、上海、英へ轉電セリ

(付記一)

七月二十六日發電

武藤少將ヨリ

英國側ハ北支ノ治安維持ニ關シ當方申出ヲ殆ント承認シツツアルガ「クレーギー」大使ハ全幅ノ誠意ヲ以テ日本軍ノ治安維持ニ協力スヘキニ付日本軍ニ於テモ北支ノ反英運動ヲ取締ラレ度ト申出デタリ

之ニ對シ當方ハ北支ノ反英運動ハ英國ノ援蔣工作及北支建

設妨害ニ對スル抗議ナリ若シ英國ニシテ政策ヲ變更シ北支民衆ノ福祉増進ニ貢獻センカ自ラ之ハ消滅スヘシ素ヨリ日本軍モ亦誠意ヲ以テ北支民衆ノ善導ニ就テハ十分努力スヘシト應酬スル意見ナルモ之ノミニテハ英國側ハ尙満足セサルモノト予想セラルルニ付至急御意圖ヲ承ハリ度

(付記二)

右返電 七月二十八日

武藤少將へ

反英民衆運動ハ英國ノ政策變更ノ實現ニ伴ヒ逐次消滅スルモノト思考セラル百年骨髓ニ徹スル民族的排英思想ノ抑壓ハ到底不可能ナルモ方面軍トシテハ勿論銳意英人ノ保護ニ努力スヘキヲ以テ「クレイギー」ノ申出ニ對シ貴見ノ通り應酬セラレ且交渉進展ノ具ニ供セラルルコト差支ナシ若シ英國側ニシテ英人保護ヲ以テ満足セサル場合ニハ交渉ノ決裂敢テ辭スル所ニアラス又英側カ排英運動ハ軍ノ指導スル附焼刃ナリトスルニ於テハ其重大ナル誤解ナルコトヲ強調シ反省ヲ促サレ度如何ナル場合ニ於テモ英國側ノ誠意具現ヲ先決條件トスル方針ニ變化ナシ

(付記三)

支那ニ於ケル排英運動ニ關シ在京英國大使ヨリ
申出ノ件

八月三日附在京英國大使發有田大臣宛半公信要譯文

(昭和二四、八、四 亞一)

拜啓陳者本使ハ屢次ノ機會ニ閣下、加藤公使、澤田次官及武藤少將ニ對シ北支ニ於ケル反英運動及示威ニ關シ會談ヲ爲ス所アリ且此ノ種運動ヲ此ノ儘續行セシムルコトハ單ニ危險ナルノミナラス又英國ニ於ケル輿論ヲ硬化セシムルコトニ依リ今次會談ニ對シ困難ヲ形成スルモノナル旨指摘致置候閣下ハ本件騷擾行爲ニ對シ日本官憲ノ示唆アリタルコトヲ否定セラレタルカ本使ハ總テノ事件ニ關シ之ニ日本側カ干與シ居ルコト及日本人私人「エーヂエント」ノ教唆アリタル多クノ證據ヲ有スル旨申述候本使ノ申入ノ主タル點ハ日本軍官憲カ北支ニ於ケル都市ニ於テ完全ナル權力ヲ有スルコト且是等騷擾行爲ハ右地域ニ於テ發生シ居ル事實ニ鑑ミ本使ハ右ヲ停止セシムル爲何故更ニ決定的措置カ爲サレサルヤ了解ニ苦シムモノニ有之候本使ハ今般英國外務大

臣ヨリ閣下ニ對シ英國政府ハ支那ニ於ケル日本官憲ハ現在
斯ル騷擾^ハ行爲ヲ停止セシメ得ヘキ地位ニアルコトニモ鑑ミ
右ニ對シ日本政府ヲ以テ責任アリト爲ササルヲ得サル旨強
ク申入ヲ爲ス様訓令ヲ受領致候斯ル騷擾^ハ行爲ノ繼續ハ右カ
其ノ指導者ニ依リ今次會談ニ於テ英國政府ヲシテ不合理ナ
ル讓歩ヲ爲サシムルヘク強制スル意思ヲ以テ企圖セラレ居
ルモノト認メラレルヲ以テ本件會談ヲシテ不可能且效果ナ
キニ至ラシムルモノヤニ認メラルモノニ候閣下ハ七月二
十二日ノ覺ニ於テ日本軍ノ權力下ニアル地域ニ於テ日本軍
カ治安ヲ維持スルノ責任ヲ有スルコトヲ承認スル様英國政
府力要請セラレタルコトヲ想起セラルヘク候現存反英騷擾
行爲及宣傳ハ日本軍權力下ニアル支那ノ如何ナル地點ニ於
テモ治安ヲ維持スル爲有益ナルモノニ非サルコトハ明白ニ
候而シテ英國政府ノ見解ニ依レハ日本軍ハ其ノ約定ニ基キ
斯ル行動ヲ停止セシムル義務ヲ有スルモノト存候
本使ハ前記訓令ヲ書物ニシテ申進スル次第ナルカ右ハ閣下
ヲ自ラ訪問スルコトカ過度ニ世間ニ於テ騷ルルコトヲ慮リ
タルモノニ有之、左レハ本使ハ閣下カ本信ノ重要性ヲ了解
セラレ且本件ニ關シ本國政府ニ對シ満足ナル保障ヲ本使カ

報告シ得ル様閣下ノ御權限内ノ措置ヲ執ラルルモノト信シ
候

本件ニ關シ本使ハ本大使館ニ於テ用意シタル是等反英運動
ニ關シ英國側ノ所有スル情報ノ要領ヲ覺トシ別添送付申進
候 敬具

編 注 本文書の原文(英文)は省略。

~~~~~

1569

昭和14年7月27日

有田外務大臣より  
在天津田代總領事宛(電報)

天津租界問題日英會談において英國側が法幣流  
通禁止の容認は絶対不可能の旨回答について

本省 7月27日後9時40分發

第二七六號

往電第二七三號ニ關シ

二十七日午前引續キ治安問題ヲ討議シタルガ英國側ヨリ明  
二十八日貴地英租界警察署長「デニス」來朝スル豫定ニ付  
其ノ上細目ニ關シ更ニ論議スベシト提議シタルヲ以テ之ヲ  
容レ午後ヨリ經濟問題ノ討議ニ入りタルガ法幣流通禁止問

題ニ關シ英國側ヨリ其ノ蔣政權ニ對スル關係及既ニ本件ニ關シ米佛兩國政府ヨリ事前ニ連絡アル様申出アリタル次第モアリ建前上之ヲ認ムルコトハ絶對ニ不可能ナル旨縷々述ブル所アリ我方ヨリ建前上之ヲ禁止スルコトコソ絶對ニ必要ナル旨強ク申入レ二十八日ノ會談迄議ヲ持チ越セリ  
英、北京、上海、青島、南京、漢口、厦門、廣東、香港ヘ轉電セリ

1570

昭和14年7月28日

有田外務大臣より  
在天津田代総領事宛(電報)

天津租界問題日英会谈での現銀引渡し問題に  
關する協議状況について

本省 7月28日後11時30分發

第二七八號

往電第二七六號ニ關シ

二十八日午前引キ續キ現銀引渡問題ニ關シ討議シタルガ英國側ヨリイ、本件銀ハ蔣政權ノ所有スル所ノモノナレバ此ノ際日本側又ハ新政權側ニ引渡スコトハ不可能ニシテロ、本件ニ關シテハ第三國殊ニ佛國側ト充分意見ノ交換ヲ爲ス

コト必要ニシテ又ハ、治安ニ關係アリトスルモスル小額ノ銀ノ爲問題アルトハ思ハレズ日本側ハ本件銀ヲ其ノ量ニ於テ且政治的意味ニ於テ誇張セラレ居ルハ遺憾ナリト縷々反對ヲ陳ベタルガ加藤公使ヨリ種々我方主張ノ根據及英國側ガ本件銀ノ引渡ヲ妨害スル場合ノ重大ナル影響ヲ説明シタルニ對シ英國側トシテハ本件銀ノ保管者タル交通銀行支店ガ自己ノ意思ニ依リ且合法的ニ之ヲ搬出スルヲ妨害スル意思無キモ此ノ場合利害關係ヲ有スル第三者ノ法律上ノ權利ヲ侵害セザルヲ要スル旨述べ居タリ

我方トシテハ臨時政府ガ交通銀行ニ對シ本件銀ノ搬出ヲ命令シタル場合英國側ガ之ヲ阻止スル權限無キ旨強ク主張シタルガ英國側ハ天津交通銀行支店ハ本店ヨリ搬出ヲ禁止スル命令ヲ受ケ居ル筈ナリト述べ居リタリ  
次回會談ハ三十一日トセリ

英、北京、上海、青島、漢口、厦門、廣東、南京、香港ヘ轉電セリ

1571

昭和14年7月29日

有田外務大臣より  
在天津田代総領事宛(電報)

天津英租界における検問検索の停止をクレイ  
ギー大使要請について

本省 7月29日後10時0分発

第二八一號

往電第二六〇號二關シ

二十八日「クレイギー」ヨリ本大臣宛半公信ヲ以テ今や會  
談モ進捗シ居ルヲ以テ英國民及食料品搬入ニ對スル煩鎖ナ  
ル檢問検索手續ヲ停止セシメラレ度旨在支英國人及本國ニ  
於ケル輿論ヘノ影響ヲ引用シ要請越セリ御參考迄  
英、上海、北京ヘ轉電セリ

1572

昭和14年7月29日 在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

米国の日米通商航海条約廃棄通告が日英東京  
会談に及ぼす影響につき觀測報告

ロンドン 7月29日後発

本省 7月30日前着

第八八一號

米國政府ノ日米通商條約廢棄通告ハ當國政府ニモ突然ノ處

置ナリシ由ニシテ東京交渉反對方面ハ益々政府攻撃ノ材料  
ト爲ス形勢ニ在ルヲ以テ旁々政府ハ往電第八七九號三ノ聲  
明ヲ發シタリ然シ英國政府モ米國政府ノ對日強硬態度ニハ  
直ニ追隨セストモ之ヲ利用シ又ハ之ニ氣兼スルコト當然ニ  
シテ東京交渉ノ貨幣問題ハ列強共同ノ問題トシテ恐ラク直  
ニ讓步セサルヘク極メテ厄介ノ問題トナルヘシ本使ハ英國  
側ニ對シ貨幣問題ニ對スル英國側ノ態度ハ所謂中立觀念ニ  
反スル次第ニ付讓步スヘキモノナル所以ヲ力説シ居レルカ  
我方ニ於テハ屢次電報ノ通り支那ノ貨幣問題ニ付テ將來英  
國(米國)ノ協力ヲ必要トスルヤモ(脱?)點ニ立ツモノトモ思  
ハル若シ然ラハ此ノ問題ハ體好ク日英間ノ將來ノ問題ニ殘  
スモ一策ナラン或ハ又將來英ヲ通シテ米國ヲモ引入レ對米  
關係全體ノ形勢ヲ緩和スルニ資スル様ニ仕向クルニ考慮ノ  
餘地アル様思ハル  
米ヘ轉電セリ

1573

昭和14年7月31日 有田外務大臣より  
在天津田代總領事宛(電報)

天津租界問題日英会談における治安問題の細

目協議について

第二八四號

本省 7月31日後11時30分發

往電第二七八號ニ關シ

三十一日午後四時ヨリノ治安問題ニ關スル討議ニ於テ「デ  
ニス」天津英租界警察署長ノ意見ヲ聞キタルガ犯人引渡及  
憲兵ヲ英租界内ニ常置セシムル件ノ細目ニ關シ更ニ檢討ヲ  
要スルコトヲ認メ本會議ニ引續キ田中「ハーバート」ヲ中  
心トスル小委員會ヲ開キ具体的事項ニ關シ意見ノ交換ヲ爲  
セリ

經濟問題ニ關シテハ日英兩代表間ニ於テ特新タナル意見  
ノ提出無ク結局經濟問題ニ關スル小委員會ヲ明一日午前開  
催スルコトトナレリ(三十一日午前開催ノ豫定ナリシ本件  
小委員會ハ都合ニ依リ延期セラレタリ)

英、北京、上海、青島、漢口、厦門、廣東、南京、香港へ  
轉電セリ

1574

昭和14年8月1日

在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界問題に關して現地軍が作成した対仏  
要求要領案について

別電 昭和十四年八月一日發在天津田代總領事より

有田外務大臣宛第五四〇号

右要領案

付記 昭和十四年八月五日發町尻(量基)陸軍省軍務

局長より山下北支那方面軍參謀長宛電報

天津租界問題に關する対仏折衝方針について

天津 8月1日後發

本省 8月1日夜着

第五三九號(極秘)

川村大佐歸任ニ際シ三十一日本間中將司會ノ下ニ現地關係  
機關ノ會議ヲ催シタルカ同中將ヨリ日英交渉進捗ニ伴ヒ日  
佛關係ヲ調整スル要アリトノ見地ヨリ別電第五四〇號要領  
案ヲ提示セリ右ニ對シ川村大佐ヨリ内容ハ兎モ角トシテ少  
クトモ日佛間ニ租界問題ニ關スル了解成立セリト言フ程度  
ノ發表ヲ行フコト然ルヘキ旨希望開陳アリ何レ本件ハ軍側  
ヨリ中央ニ意見具申ノ運トナルヘキカ本件實施ノ場合別電  
三ハ結局當地ニテハ話合ヲ遂クルコト無理ナルヘキニ依リ



東京ニ於テ了解ヲ取付クル外ナシト存セラル  
北京、上海へ轉電セリ

(別電)

天津 8月1日後発  
本省 8月1日夜着

第五四〇號(極秘)

一、東京交渉第一會談タル有田「クレイギー」會談ノ結果ハ  
東京ニ於テ佛國大使ニモ佛國政府ニモ之ヲ認メシムルヲ  
要ス

但シ英佛共同正面ノ結成ヲ避クル爲日佛交渉ノ形式ヲ排  
シ單ニ佛國政府ニ通牒シテ暗黙ノ了解ヲ得ル程度ニテ可  
ナリ

二、東京交渉第二會談ニ於テ天津租界ニ直接關係アル原則問  
題進捗セハ田代總領事ヨリ「コーラン」佛國總領事ニ日  
本側要求ノ内容ヲ提示シ佛國側ノ自由意思ニ於テ先方ヨ  
リ進ンテ協調スル形式ニ依リ之ヲ承認セシム

三、日英間現地細目協定開始ニ先立チ田代總領事「コーラ  
ン」總領事間ニ於テ了解ヲ進メ將來實行上ニ關スル細部

ヲ協定シ之ヲ覺書トシテ交換ス但シ公表スルコトナシ  
斯ク日佛細目協定ノ成立ハ日英細目協定ノ交渉ヲ容易ナ  
ラシムヘシ

四、現銀問題其ノ他英佛租界共通事項ニシテ佛國一存ニテ回  
答シ能ハサルモノハ佛國側ノ意嚮ヲ叩キ其ノ言質ヲ得ル  
程度ニテ可ナリ

北京、上海へ轉電セリ

(付記)

八月五日夜發電

北支軍參謀長宛

軍務局長

東京第二次會談成立ノ機ヲ利用シ佛國トノ間ニ何等カノ取  
極メヲ行フコトハ異存ナシ

然レトモ右折衝ハ本次會談ノ形式ニ依ルコトナク東京ニ於  
テハ日英間ノ協定内容ヲ佛國ニ通達シ同趣旨ニ依リ今後現  
地諸問題ヲ處理スルコトニ同意セシムル程度トシ、爾後現  
地ニ於テ折衝ヲ行フヲ可トス、尙右日佛間折衝ハ日英第二  
次會談ノ一段落ヲ見タル時機ニ於テ開始シ度キ意向ニ付更  
ニ連絡アリ度シ

武藤少將ト連絡済

1575

昭和14年8月1日

有田外務大臣より  
在天津田代総領事宛(電報)

天津租界現銀問題および治安問題に関する小

委員会開催について

本省 8月1日後9時発

第二八五號

往電第二八四號ニ關シ

八月一日午前午後二亘リ現銀引渡問題ニ關スル小委員會ヲ  
開催シ本件ニ關スル事實及我方ノ説明ニ關シ更ニ双方ノ見  
解ヲ明カニシ其ノ結果ヲ夫々報告スルコトセリ

治安問題ニ關シテモ午後小委員會ヲ開催シタルガ冒頭往電  
前段ノ事項ニ關シ一應最後の検討ヲ遂ゲ之ヲ報告スルコト  
トセリ

英、北京、上海、青島、漢口、廈門、廣東、南京、香港へ  
轉電セリ

1576

昭和14年8月3日

有田外務大臣より  
在天津田代総領事宛(電報)

天津租界現銀問題および法幣流通禁止問題に  
関する在本邦仏国大使よりの申し出について

本省 8月3日後7時50分発

第二八九號

一、一日在京佛國大使本大臣ヲ來訪シ佛國政府トシテハ天津  
租界内現銀ハ支那銀行ノモノニシテ從テ支那銀行ノ同意  
ナクンハ之カ引渡ヲ認ムルヲ得ス又法幣ハ蔣政權ノ通貨  
ニシテ同政權ト正常關係ニアル佛國トシテハ之ヲ禁止ス  
ル能ハスト述ヘタリ仍テ本大臣ヨリ右申出ハ單ニ佛國政  
府ノ見解ヲ通報セラルルニ止マルモノナリヤ又ハ目下進  
行中ノ日英會談ニ「インターフィアー」セントスル趣旨  
ナリヤト反問シタル處佛國大使ハ單ニ佛國政府トシテノ  
見解ヲ通報スルモノナリト答ヘタルニ付本大臣ヨリ然ラ  
ハ單ニ佛國政府ノ見解トシテ聽キ置クヘキカ何レ本件ニ  
付テハ佛國側ト話合ヲナスコトトナルヤモ知レスト應酬  
シ置キタリ

三、二日加藤公使會議外ニ於テ「クレイギー」大使ト會談ノ

際右佛國大使申出ノ件ニ言及シ且下日英間ニ話合中ノ銀問題及法幣問題ニ關シ佛國等ヲ加ヘテ討議スルカ如キコトハ絕對ニ之ヲ行ハサルコトニ我方方針既ニ確定シ居ル次第ナル旨ヲ告ケ若シ英國側ニ於テ佛國等ヲ參加セシメ共同審議ヲ期待シ居ルニ於テハ見當外レナルコトヲ明カニシ置キタル趣ナリ

北京、上海、青島、漢口、厦門、廣東、香港、南京、英、佛ニ轉電セリ

1577

昭和14年8月3日

有田外務大臣より  
在天津田代總領事宛(電報)

天津租界法幣流通禁止問題に関する在本邦米  
国代理大使よりの申し出について

本省 8月3日発

第二九〇號

三日在京米國代理大使「ドーマン」次官ヲ來訪シ本國政府ヨリ口頭申入方ノ訓令ヲ受ケタル趣ヲ以テ且下日英間ニ法幣問題ニ關シ話合進行中ノ趣ナル處米國政府ノ見解ハ

The Government of the United States could not be

expected to give assent to any measures arranged by third states which would purport to make illegal the use in any part of a sovereign state of the currency of the recognized government of that state. ナル旨述ヘタルニ付次官ヨリ右申出ハ日英間ノ話合ニ關係セントスル趣旨ニハ非スト思考スル旨述ヘタル處「ドーマン」ハ日英間ノ話合力單ニ「ローカル」ノ問題ヲ議シ居ル間ハ何等米國トシテモ口ヲ入ルル積リハナク唯法幣ノ流通力禁止セラルルコトトナリ外貨ニ轉換シ得ラレサル聯銀券ノミヲ使用スヘシトノコトトモナラハ米國ノ利害ニモ關係スルコトトナリ其ノ意味ニ於テ問題カ一般的トナルガ故ニ前述ノ見解ヲ申入置ク次第ナル旨答タリ尙次官ヨリ倫敦邊リヨリノ新聞報道ニ依レハ英國カ米國ニ「アプローチ」シ居ル旨報道セラレ居ル處其ノ結果斯ル申入ヲセラレタリヤト尋ネタル處「ドーマン」ハ全然非公式ニ貴官限リニ申上クル次第ナルカ右申入ノ内容ハ英國側ヨリ提議シタルモノトハ全然異ナル旨内話セリ

北京、上海、青島、廣東、香港、南京、英、米ヘ轉電セリ

英ヨリ佛ニ轉電アリ度

1578

昭和14年8月5日

在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界牛乳供給問題に対する現地軍の対応

措置について

天津 8月5日後発

本省 8月5日夜着

第五五八號

加藤公使ヨリ電話御依頼ノ牛乳ノ件ニ關シ五日本間中將ヲ  
往訪御申越ノ趣旨ヲ説明シ善處方申入レタル處同中將ハ軍  
側トシテハ御承知ノ通り牛乳搬入ヲ特ニ制限シ居ル次第第二  
アラサルモ最近檢問所ニ於ケル「トラツク」等輻輳シ牛乳  
ノ搬入モ自然遲延勝トナリ爲ニ配給業者等ニ於テ搬入ヲ手  
控ヘタル結果カト思考セラル統計ニ依レハ客月十日ヨリ急  
激ニ牛乳ノ搬入減少シタル爲英國側ニテ問題トシタルモノ  
ナランカ本件ニ關シテハ武藤少將ヨリモ申越ノ次第アリ折  
角緩和方考慮中ナリシ次第ナリト直ニ主任參謀ヲ招致シ  
此ノ處暫クノ間本件牛乳積載ノ「トラツク」ヲ優先的ニ通  
過セシムヘキ旨命令セリ尙同中將ノ希望トシテ今後ノ事態  
ノ推移ニ應シ更ニ嚴重ナル手加減ヲ加フル必要アルヘキニ

付英國側ニ對シテハ緩和方措置取計フヘキ旨通報スルコト  
ハ差控ヘタキ旨述ヘタリ

北京、上海、英へ轉電セリ

~~~~~

1579

昭和14年8月10日

有田外務大臣より
在天津田代総領事宛(電報)

天津租界問題日英会談の英國側遷延態度に對
しこれ以上回答を引き延ばす場合わが方軍代
表は現地へ帰任する旨通告について

付記 昭和十四年八月九日

加藤公使・クレギー大使会谈要旨

本省 8月10日発

第二九六號(極秘、至急扱)

往電第二八五號ニ關シ

八月四日加藤「クレギー」私的會談ニ於テ我方ノ會談進
捗方督促ニ對シ「ク」ハ治安問題ニ關シテハ先月末經濟問
題ニ關シテハ二日請訓セルヲ以テ暫ク猶餘アリタシトセル
(豫カ)
ガ八日ノ私的會談ニ於テハ治安問題ニ關シテハ一應ノ回訓
到着セルモ經濟問題ニ關シテハ米佛モ利害關係ヲ有スルヲ

以テ本國政府トシテモ兩國政府ト商議中ナルベク從テ回訓ノ時期モ不明ナリトセリ

仍テ九日加藤公使ヨリ重テ「ク」ニ對シ本會談ヲ遷延セシムルコトハ其ノ成功ヲ益々困難ナラシムル所以ヲ強調シ併セテ經濟問題ニ關スル我方ノ眞意及決意ヲ傳達セル處「ク」ハ種々英國側立場ヲ説明セルモ結局要領ヲ得ザリシヲ以テ公使ヨリ現地軍代表ハ夫々現地ニ於テ重要ナル任務ヲ有スルヲ以テ英國側回答時期ニ關シ明白ナル期待無ク此ノ上東京ニ滞留スルハ事實上不可能ナルヘキ旨内話シ置キタルガ十日朝重ネテ英國側ヨリ回答無キ限り武藤少將以下軍側代表ハ十三、四日頃ノ飛行機ニテ現地ニ歸還スル豫定ナル旨正式ニ通報セリ「ク」ハ右ニ對シ期日ノ發表ハ倫敦ヲ無用ニ刺激スベキニ付發表セザル様依頼セリ）冒頭往電通轉電セリ

（付記）

天津會談ニ關シ加藤公使、「クレーギー」大使
會談ノ件

（昭和四、六、九 亞一）

八月九日加藤公使ヨリ「クレーギー」大使ノ來訪ヲ求メ次官官邸ニ於テ十一時半ヨリ午后一時十五分迄面談セルカ要旨左ノ通り

加藤公使

昨日ノ御話ニアリシ治安問題中ノ若干ニ關スル英國側ノ決定的意思ヲ表明スル爲ノ會議開催ハ昨日私見トシテ申述ヘシ通り政府ニ於テモ適當ナラストノ見解故右様ニ御了知願度シ問題ハ依然トシテ經濟問題ニ關スル英國側ノ回答振リニ繋リ居ル譯ニテ其ノ後何等本國ヨリ通報ニ接シ居ラレサルヤ

「クレーギー」大使

自分トシテハ一日モ早く回答ヲ發スルヤウ能フ限りノ力ヲ盡シ居ル次第ナリ併シ何分ニモ第三國政府ト協議ヲナシ居ルコトニテ自國政府ノミニテ決定スルコトナレハ期日ヲ劃シテ回訓ヲ求ムルコトモ不可能ニ非サルモ第三國政府カ介在スル爲ニ此ノ事モナラス洵ニ遺憾ト存シ居ル次第ニテ今迄繰返シ申上ケタル通り自分トシテモ亦倫敦政府トシテモ決シテ此ノ問題ヲ故意ニ引延シ居ル譯ニ非ス其ノ點ハ何卒日本側ニ於テ誤解ナキヤウ願ヒ度シ

加藤公使

昨日モ御話セル通り日本側ニテハ今回ノ東京會談ハ會談全体トシテ一体ヲナスモノナリト云フ考ヲ堅持シ居ルモノニテ本會談カ全体トシテ満足ナル終結ヲ一日モ早ク遂クルヨウ望ミ居ルモノナリ經濟問題ニ關スル英國側回訓ノ遅レ居ル事情ノ一トシテ米、佛兩國政府ト協議中ナリトノコトナルカ在京佛國大使カ有田大臣ニ面會ノ際佛國政府ハ支那銀行ノ同意アルニ非サレハ天津佛國租界ヨリノ現銀ノ搬出ニ對シ同意シ得サルコト又支那政府ノ法貨タル法幣ノ流通ヲ同國租界内ニ於テ禁止スルコトハ不可能ナリトノ趣旨ヲ申入レラレシコトハ先般貴大使ニ不取敢御通報申上ケタル通りナルカ其ノ後米國代理大使澤田次官ヲ訪問シ米國政府ニ於テハ法幣問題ニ付重大關心ヲ持チ居ル次第ナルカ故ニ今回日英會談ノ結果本問題ニ付テ何等カ決定セラルコトアリトスルモ此ノ決定ニ依リ米國政府及市民ノ權利ヲ害スルカ如キコトハ認ムル能ハスト云フ趣旨ノ申入レアリタルカ佛國大使並ニ米國代理大使ノ我方ニ對スル申入振リハ比較的輕キ性質ノモノニテ英國側ニ於テ之等兩國政府トノ協議ヲ恰モ極メテ重要ナルカ如ク解セラレ居ル様子ナルモ我方

ノ受ケ居ル印象ハ多少之ト相違スル所アリト認メラル故ニ此ノ點ニ付英國側ノ注意ヲ喚起致度シ

「クレーギー」大使

先般モ一寸御注意申上ケタルカ佛國大使カ有田大臣ニ申入レラレシ趣旨ハ支那銀行ノ同意ナクシテハ銀ノ搬出ニ反對ナリト云フコトテハナク問題ノ銀ノ預入者ノ同意ナクハ銀ノ租界外搬出ニ同意スル能ハストノコトナリト「アンリ」大使ヨリ直接承リタルカ此ノ點ハ極メテ重要ナルモノ故重ネテ御注意申上ケ置キ度シ

加藤公使

預入者トハ此ノ場合重慶政府ヲ指スモノナリヤ

「クレーギー」大使

其ノ點ハ殊更ニ明白ニシ居ラス重慶政府ナリヤ又ハ其ノ他ノ者ニアリヤノ問題ニ觸ルルコトナク預主ノ承認サヘアレハ租界外ヘノ搬出ニ異議ナシトノ趣旨ト諒解シ居レリ尙米佛兩國政府ト現ニ英國側カ協議中ナルカ此ノコトハ日本側ニ如何ナル反應ヲ與ヘタルヤハ別トシテ英國政府トシテハ非常ニ重要ニ考ヘ居ル所ニシテ殊ニ米國側ニ對シ英國力東洋ニ於テ採ラントスル處置ニ付豫メ十分ナル諒解ヲ與ヘ置

クコトカ天津ニ關スル現實ノ問題處理上大切ナルノミナラス今日以後ノ各種問題ノ處理ニ付テモ亦極メテ重要ナリト考ヘ居レリ先般モ一寸附言セシコトナルカ今後支那關係諸問題ノ處理ニ當ツテ日英間ニ如何ナル話合カ出來ルトシテモ米國ノ理解アル支持ヲ得ナイ限リ到底其ノ效果ヲ擧ケ得サル次第ニモアリ此ノ點ハ日本側ニ於テモ十分ニ理解セラレンコトヲ希望スルモノナリ

加藤公使

先般自分一個ノ印象ナリトシテ貴大使ニ申述ヘ置キシコトアルモ今日ハ明白ニ經濟問題ニ關スル政府ノ所懷ヲ申上ケ度シ第一銀ノ問題ニ付テハ其ノ實際的ノ方法ハ如何ニモアレ兔ニ角之ヲ引取ルト云フコト丈ハ堅ク決意シ居ル處ニテ又第二ニ若シ銀ノ問題カ日本側ノ主張通り決定セル場合ニハ法幣ノ租界内流通ヲ正式ニ禁止セシメルコトニ對スル主張ハ之ヲ改ムルモ通貨金融等ノ問題ニ關シ租界内居住支那人ニ對シ臨時政府又ハ日本軍力或種ノ取締ヲ實行セネハナラヌト云フコトニ付テハ之亦堅キ決心ヲナシ居ル次第ナリ之等二點ニ關シ十分満足ナル協議ノ出來上ラサル限り此ノ會談ハ遺憾乍ラ決裂ノ外途ナカルヘシト信シ居ルモノナレ

ハ貴大使ニ於テモ此ノ點ニ付テ十分考慮ヲ加ヘラレタル上本國政府ニ對シテ日本側ノ抱懷シ居ル決心ヲ明白ニ示サレテ之ニ對スル回答ヲ速ニ寄セラレル様致サレ度シ

「クレーギー」大使

銀問題ニ付テハ英國側ニ於テ決シテ妨害のナ態度ヲ取り居ルモノニ非ス唯筋道ノ通りシ方法サヘアラハ搬出ニ贊成シ居ルコトハ先日來申述ヘシ通りナルカ此ノ問題ニ關シテ自分ハ本國政府ニ對シニツノ實際的方法ヲ暗示シテ其ノ決定ヲ待チ居ル譯ナルカ自分ノ提議シタ實際的方法ト云フハ第一案トシテ交通銀行支配人又ハ其ノ代理者ヲシテ臨時政府側ノ命令ニ對シテ同意ノ旨ヲ表示セシメルコト又第二ノ方法ハ天津地方裁判所ヲシテ銀搬出ニ關スル命令ヲ出サシムルコトナルカ前者ノ方法ニ付テ其ノ後日本側ニテ何等カノ方法手段ヲ講セラレシヤ否ヤヲ承知シ度シ

加藤公使

其ノ事ニ付テハ先般來天津ト連絡シ研究ヲ加ヘタルモ御承知ノ通り交通銀行ノ支配人ハ現ニ天津ニ歸リ居ラサル狀況ニテ残り居ル第二番目ノ人ハ中央ヨリノ同意ナキ限り如何ニスルモ之ニ同意ヲ表スル能ハスト言ヒ居ル有様ニテ此ノ

方法ハ交通銀行カ重慶政府ノ一機關銀行ナルカ如キ形ヲナシ居ル關係上到底不可能ナリト認メラル結局貴大使ノ言ハルル第二ノ方法ニ依ル外ナシト考フルカ若シ英國政府ニ於テ日本側ヨリ第二ノ方法ヲ提示スルコトカ本件ニ對シ速ニ決定ヲ與フルニ好都合ナリトセラルルカ如キ事情アルニ於テハ此ノ際日本側ヨリ之ヲ提議スルコトモ考慮スヘシ

「クレギー」大使

其ノ事ニ付テハ自分ヨリ十分申送りアリ之ヲ日本側ヨリ改メテ申出テラルルコトハ却テ問題ヲ困難ニスルモノナリト考ヘラルルカ故ニ其ノ必要ナカルヘシ尙通貨ノ問題ニ關シテ租界内居住支那人ニ對シ取締ヲセラルルコトハ當然ノ申出ニシテ之ヲ拒ムヘキ理由ハ英國側トシテハナキ次第ナレト何分ニモ取締ノ根據タル法律命令ハ北支ニ於テハ臨時政府ノ命令デアリ而モ英國ト正常ナル外交關係ヲ持シ居ル重慶政府ノ貨幣法ト正面的ニ衝突スヘキ貨幣法其ノ他金融關係ノ諸方策力其ノ儘租界内ニ於テ適用セラルルコトヲ正式ナル文書テ認メルト云フコトハ不可能ニシテ唯事實上取締ニ協力スルト云フコトハ治安問題ニ對スル英國側ノ新タナル方針ニモ照シ可能ノ範圍内ニ於テ十分ナシ得ルト考フル

モ之ヲ一々詳細ナル書キ物ニシテ協定事項トスルコトハ形式上殆ト超ヘ難キ困難アルモノト考ヘ居リ從テ例ヘハ文書ニ依ル協定ノ中ニハ通貨金融等ノ事項ニ關シテ賭博的ナル取引、投機のナル取引又ハ密搬出入等ニ關スル取締ニ協力スルト云フコトニシ而モ日本側ニテ希望シ居ラルル錢舖、銀號、銀行等ノ検査其ノ他必要トセラルル各種ノ取締事項ヲ現地ニ於テ協定スルト云フヤウニシタナラハ此ノ方ノ問題ハ餘リ多クノ困難ナシニ出來上ルニ非スヤト考ヘ居レリ
加藤公使

日本側ニ於テハ相當詳細ナル事項ニ亘リ協定ヲ遂ケ度キ意向ナルカ此ノ席上之ヲ詳細ニ申述フルコトハ差控フルモ要スルニ現銀搬出ノ問題ト支那人ニ對スル金融通貨ニ關スル取締ノ勵行ノ二點ハ日本側ニ於テハ絕對ニ必要ナリト認メ居ルモノナルカ故ニ其ノ邊ノ事情ヲ十分本國政府ニ高調セラルル様希望ス

又英國側ノ回訓到達セサル爲會議モ長々休會狀態トナリ居リ交渉ノ實質一向進展セサル爲現地ヨリ出京セル陸軍側代表者ハ無爲ニ東京ニ長ク滞在スルコトハ其ノ職務ノ關係上非常ニ困難トスル所ニテ特ニ武藤少將ノ如キハ野戰軍ノ參

謀副長トシテ極メテ責任ノ重大ナル地位ニアルカ爲ニ今日ノ如ク會談ノ前途ニ付何等確定的ノ目安モ立タサル狀態ニ於テ何時迄モ東京ニ滞在スルコトハ不可能ナリトテ尙一兩日今日同様ノ事態繼續スルニ於テハ如何ニシテモ現地ニ歸ラネハナラヌト云フコトヲ言ヒ居ルカ同少將ノ立場トシテハ洵ニ無理カラヌ次第ナリト考ヘラレ吾々トシテモ強ヒテ之ヲ引留ムルコト能ハサルカ如キ狀態ナルニ付繰返シ申上ケ度キハ一日モ速ニ回訓ノ發セラルル様此ノ上トモ御盡力願ヒ度シ

「クレーギー」大使

自分トシテモ出來得ル限りノコトヲナシ居リ又之カラモナスヘキハ先程モ申セシ通りナリ何卒武藤少將ニ於テモ此ノ會談カ將來支那ニ關スル日英間ノ各種問題ヲ處理スルニ付極メテ重要ナル意義ヲ持チ居ルコト二十分留意セラレ現地ニ於ケル職務上ノ立場モ去ルコト乍ラ此ノ會談ノ重要性ニ鑑ミ繰合セノ上今暫ラク東京ニ滞在セラルルヤウ自分ヨリモ切望シ居ル旨御傳ヘ願ヒ度シ又日本政府側ニ於テモ其ノ趣旨ニテ成ヘク同少將ノ退京ヲ延期セラルル様御盡力願ヒ度シ

時ニ昨今新聞等ヲ通シテ日本側テハ三國同盟問題ヲ取上ケ審議セラレツツアリトノコトヲ承知シ居ルモ若シモ此ノ同盟カ成立スルト云フコトナレハ吾々ノ此ノ會談ハ却テ初メカラヤラサル方宜シカリシナラント思フ其ノ邊ノコトニ付テ如何ニ考ヘラルルヤ

加藤公使

三國同盟ノ問題ハ自分ハ直接關係シ居ラス現在政府ノ問題ニナリ居ルコトハ承知シ居ルモ此ノ問題ハ天津ニ關スル日英會談トハ全然關係ナキ問題ニシテ兩者ノ間ニ強ヒテ關聯性ヲ附クルカ如キコトハ考ヘ居ラスト承知シ居レリ唯自分ノ私見ナルカ今回ノ會談カ成立シ日英間ニ新シキ友好的空氣カ醸成セラルルコトトモナラハ輿論ノ三國問題ニ對スル見方ニモ多少ノ變化ヲ來シ得ルコトハアリ得ルコトト考ヘ居レリ

「クレーギー」大使

尙米國ノ條約廢棄問題ヲ通シ日米間ノ關係險惡ニナルト云フカ如キコトアラハ假ニ日英間ニ今回ノ會談等ヲ通シ良好ナル空氣生シ來ルトモ之ハ互ニ相殺シ合フカ如キ結果ニナルコトヲ惧ルルニ付キ亞米利加問題ニ對スル日本側ノ見解

ヲ伺ヒ度シ

加藤公使

條約ノ廢棄通告ハ主トシテ米國ノ國內政治ノ動キヨリナサレシモノト思フ從テ之ニ依リ急激ニ日米ノ關係カ惡化スルト云フカ如キハ必スシモ當ラヌト考フ

「クレীগー」大使

實ハ自分ノ竊カニ確信シテ居ル所ナルカ先ツ支那ニ關スル日英間ノ諸問題ニ付日英兩國ノ間ニ話合ヲセネハナラヌコトハ當然ナルモノレト共ニ日英力話ヲナシ居ル筋合ヲ米國ヲシテ十分諒解セシメ而シテ之ニ協力的ナ態度ヲ取ラシメルト云フニ非スハ太平洋ニ關スル各種ノ問題ノ處理ハ到底満足ニ成功出來ヌモノト考フ差當リ次ニ起ルヘキ問題ハ支那ニ於ケル幣制ノ問題ナルカ此ノ事ニ付テハ前回モ簡單ニ自分ノ考ヲ述ヘ置キタルカ成程現ニ戰爭行爲カ行ハレ居リ之等ノ問題ヲ急激ニ採上ケ見ルモ實效アル成案ニ達スルコトノ困難ナルハ重々承知シ居ルモ尠クモ日、英、米、支四國ノ關係者間ニ豫メ本問題ヲ十分檢討シ日支間ニ和平成立ノ直後直チニ之ヲ實施ニ移シ得ルカ如キ案ヲ豫メ用意シ置クト云フ様ニシテ置クコトハ他面日支間ノ平和ヲ促進セ

シムル意味ニ於テモ極メテ有效ナル措置ナルヘシト思惟スル處此種ノ問題ニ付テハ米國ノ協力的態度ハ絕對ノ必要條件ニシテ之等ノコトヲモ十分考慮ニ入レ英國側トシテハ天津關係ノ經濟問題ニ付テモ豫メ遺漏ナク米國側ト協議ヲ遂ケ居ル次第ナリ故ニ日本側ニ於テモ米國トノ關係ニ付十分考慮ヲ加ヘラレ適當ノ措置ニ出テラレンコトヲ希望セサルヲ得サル次第ナリ又蘇聯ト英國トノ間ニハ現ニ一種ノ協議カ行ハレツツアリ之ハ自分ノ考テハ恐ラク成功セサルヘシト思ヒ居ルモ假ニ之カ成立スルトシテモ英國側ノ此ノ問題ニ對スル考ハ御承知ノ通り獨逸ニ對應スルカ爲ニ一面波蘭、羅馬尼ニ對シ一種ノ援助ノ協約ヲ作ツタ關係上之等兩國ニ接壤スル蘇聯ノ態度カ如何アルヘキカト云フコトニ付キ英國側トシテハ重大ナル關心ヲ有スル次第ニテ此ノ兩國ニ對スル英國ノ支援政策ノ見地カラ蘇聯トノ間ニ或種ノ話合ヲスルト云フ實際ノ必要ニ驅ラレ居ル譯ナリ吾々英國人ハ國民感情ノ上カラ言フモ蘇聯ト同盟關係ニ入ルカ如キハ不可能ナレトモ獨逸ノ今日ノ政策ニ對應スル爲ニハ眞ニ已ムヲ得サル措置ニシテ而モ此ノ話合ニ關シ東洋殊ニ對日本ノ問題ハ全然除外セラレ居ル譯ナリ又假ニ此ノ英蘇協定成立ス

ルトスルモ日本ノ對蘇政策ニ對シ何等障礙トナラヌノミナ
ラス實ハ却テ好都合ニナルニ非スヤトモ思ハルノハ此ノ
協定カ若シ成立スルトスレハ蘇聯ハ極東ニ於ケル兵力ヲ或
ル程度迄西部ニ移動セネハナラヌコトナリ東ニ對スル蘇
聯ノ壓力カソレタケ減殺セラルル譯ナルヲ以テナリ又英國
政府ハ今回日英ノ間ニ或種ノ聲明ヲセシニ拘ラス依然トシ
テ重慶政府ニ對スル關係ヲ改メサルニ非スヤト云フカ如キ
非難カ相當日本側ヨリ出テ居ルヤウナルモ此ノ問題ニ付テ
モ篤ト日本側ニ於テ考ヘテ戴キ度キハ重慶政府ヲ英國力急
ニ見放スト云フ如キ態度ヲ取ルコトハ同政府ヲ驅ツテ窮ナ
ル餘リ蘇聯ノ手許ニ走ラシムルコトニナリ之ハ英國ノ欲セ
サル所ナルト共ニ又日本側ニ於テモ固ヨリ欲セサル所ナル
ヘシト考フ斯カル點ヨリ對重慶態度ニ付テモ或ル程度日本
側ヨリ見レハ生溫キ感ハアルナランモ英國側トシテハ之亦
已ムヲ得サル處置ニシテ重慶側ニ對シテハ日本ト關係アル
問題ニ付テハ從來ト異レル手段ヲ用ヒテ對處セサルヲ得サ
ル必要ニ迫ラレ居レリト説明シ居ル譯ナルヲ以テ餘リ日本
側ヨリ此ノ點深ク追窮セラレサルヤウ願ヒ度キモノナリ



1580

昭和14年8月11日

有田外務大臣より
在天津田代總領事宛(電報)

程暗殺事件容疑者の引渡しに応じる旨をロンドン
で発表するとクレギー大使通報について

付記 昭和十四年八月十二日

加藤公使・クレギー大使会談要旨

本省 8月11日後6時0分発

第二九七號(至急)

往電第二八五號ニ關シ

十一日午前九時求ニ依リ加藤公使「クレギー」ト會談シ
タル際「ク」ヨリ問題ノ四人ノ被疑者ニ關シ大法官等
(The Lord Chancellor and the Law Officers of the Crown)
ニ於テ一應ノ證據アリトシテ満足シタルヲ以テ之等ヲ支那
側地方法院ニ引渡スベシトノコトヲ十一日午後八時(日本
時間)倫敦ニ於テ發表スベシト述ベタルヲ以テ公使ヨリ會
議カ現在ノ如ク停頓シ居ル際右ヲ發表スルハ却テ英國側ノ
術策ナルヤノ感ヲ與ヘ日本側輿論ニ對シ面白カラザル影響
ヲ與フルコトトナルヘキ旨ヲ述ヘ中止方要望シタル處
「ク」ハ本件ニ關シテハ嚮ニ「チェンバレン」首相モ演說ニ

於テ言及セル經緯アリ英國輿論モ大イニ氣ニシ居ル問題ナレバ之ガ發表中止ハ今トナリテハ事實上困難ナルベシト思料スルモ兎モ角我方意嚮ハ本國政府へ通報スベシト述ベタル趣ナリ

冒頭往電通り轉電セリ

(付記)

天津問題ニ關スル加藤公使「クレীগー」大使

會談要旨

(昭和四、八、三、亞一)

八月十二日「クレীগー」大使ノ求メニ依リ外務次官官邸ニ於テ午前十一時ヨリ加藤公使會談セルカ要旨左ノ通り「クレীগー」大使

治安問題ニ關スル當方ヨリノ請訓ニ對シ本國政府ヨリ大体殆ト全部請訓通り承認ヲ與ヘ來リシカ一二字句ノ修正ヲ除キ實質の二異議ヲ申越シ來リタル點ハ租界内ニ日本憲兵駐屯ノ問題ニシテ此ノ點ハ本國ニ於テモ相當困難ヲ感シ居ル模様ニテ何等カノ機會ニ於テ此ノ點ニ對スル本國政府異論ノ趣旨ヲ自分ヨリ日本側ニ通シ諒解ヲ求メナケレハナラヌ

ト考ヘ居ル次第ナルカ差當リノ思付キトシテ本日午後全体會議ヲ開キ其ノ機會ニ本國ヨリノ回訓ニ基ク治安問題英國側決定案ヲ披露シ其ノ際憲兵屯所ノ問題ニ關スル本國ノ意見ヲ開陳シ度シト考フルカ日本側ノ此ノ事ニ關スル意見承リ度シ

加藤公使

治安問題タケヲ此ノ際採上ケテ圓卓會議ニテ論議スルコトハソレ自体何等異議アルヘキ筈ナシ唯經濟問題ニ關シ英國側ノ確定的意向ヲ待機シ居ル今日其ノコトニ觸ルルコトナクシテ單ニ治安問題ノミニ付會議ヲ開クコトハ先般來屢々申述ヘシ通り世間ニ誤解ヲ與フル惧アルニ付日本側トシテハ直ニ同意ヲ表スルコト能ハス或ハ又他ニ何等カ本日午後會議ヲ開ク意味合ニテモアルモノナリヤ

「クレীগー」大使

之ハ單ニ附タリノコトナルカ現地ノ軍側代表モ月曜日(八月十四日)離京セラルルト云フコトニテモアリ其ノ以前に一應顔合ヲナシ置クコトモ意味アラント考ヘシ譯ナルカ勿論會議ヲ開クヤ否ヤノ問題ハ日本側ノ意見ニ依リ決定シ度シト存スルモノ故必スシモ之ヲ固執スルモノニ非ス

加藤公使

經濟問題ニ關スル回訓到着ノ見込ハ未タニ全然ナキヤ

「クレーギー」大使

此ノ事ニ付最近本國ヨリ通報アリシカソレニ依レハ回訓ニハ今少シ時間ヲ要スルトノコトニテ實ハ竊カニ失望シ居ル譯ナリ回訓ノ遅ルル理由ハ先般來モ申上ケタル通り勿論ソレ自体ノ複雑且關聯事項ノ廣汎多岐ナル事柄ニ因ル次第ナルモ他方自分ノ察知スル所ニ依レハ回訓遅延ノ原因又ハ理由ニハ非サルモ本國ヲシテ本件促進ヲ躊躇セシメ居ル一ノ重大ナル事情アルハ明白ニシテソレハ支那ニ於ケル反英運動カ日一日増々悪性化シツツアルコトナリ本日モ參考ノ爲ニ二三ノ事實ヲ書キ物ニシテ持參セシヤウノ有様ニテ河南省、山東、北京ノ各地ニ於テ現ニ英國人ノ財産カ反英運動ノ犠牲トナリ居ル事實アリ支那各地ニ於ケル領事等ヨリ極メテ憤慨ニ充チタル又調子ノ頗ル高キ報告カ本國ニ齎ラサル爲倫敦政府トシテハ之等ニ付非常ニ憂慮シ居ルト共ニ斯カル事態ノ續キ居ルコトカ當方ニ於テ待チ居ル本國政府ノ決意ヲ相當鈍ラセツツアルコトハ十分ニ察セラルル所ニシテ自分カ誠心誠意此ノ會談ノ成功ノ爲努力シ居ルコトハ

御承知ノ通りナルカ自分ノ本國ニ對スル進言ニ重キヲ置カシムルカ爲ニハ何カ此ノ問題ニ關シテ日本側ニ於テ一ノ意思表示ヲナシ戴クコト極メテ有利ナリト考フルモノナリ勿論此ノ種運動ハ即時ニ終熄セシムルコトハ困難ナランモ日本政府ニ於テ之等ノ運動ヲ是認スルモノニ非スト云フコトヲ何等カノ形ニ於テ表示シ戴クヲ得ハ自分ノ立場トシテ洵ニ幸ニシテ若シ日本側カ右ノ意思表示ヲ公表セラルルヲ好マサル場合ハ單ニ自分ノミニ對スル含ミトシテ何等カノ表示ヲ戴キ得ルニ於テハ其ノ通りニ取計ヒ自分ニ於テ之ヲ會談ノ促進ニ最モ有利ニ利用シ得ヘシト考フルモノナルカ此ノ事ハ今回ノ會談ニ勿論關係アルモ又見方ニ依リテハ日英關係ノ全般の問題ニテモアリ更ニ廣キ見地ヨリ有田大臣ニ申入レヲセンカトモ考ヘシ次第ナルカ今日ノ際ニ大臣ニ直接自分カ會フコトハ餘リ世間ノ注意ヲ惹キ過キテ面白カラサル影響ヲ與フルヤモ知レス右ヲ慮リテ之ヲ貴官迄申入レ十分日本側ノ考慮ヲ求メ度シト思フ次第ニテ此ノ問題ハ非常ニ自分トシテハ重要ナル問題ト考ヘ居ルモノ故切ニ日本側ノ慎重ナル考慮ヲ煩シ度シ

加藤公使

支那ニ於ケル反英運動ハ英國側ニ於テハ恰モ日本官憲ノ使
 噉ニ基クモノナルカ如ク解釋セラレ居ルモソレハ誤解ニシ
 テ支那民衆ノ今ヤ戰爭ニ厭キ一日モ速ニ平和ノ將來ヲ待望
 シ居ルモノナルカ平和回復ノ障礙ヲナシ居ルハ勿論蔣政權
 テハアルカ其ノ背後ニ英國ノ援助アリトノ考ヨリ此處ニ英
 國ニ對スル不平不滿カ勃發シ今日ノ如キ排英運動トナリタ
 ルモノニテ其基因ハ全ク此點ニ存スル譯ナルカ官憲ノ現地
 ニ於ケル從來ノ遣方カ不幸ニシテ支那民衆ノ右ノ如キ不平
 ニ油ヲ注クカ如キ有様ニテ此ノ民衆ノ自發的ナル運動ヲ無
 理ニ取締ルコトハ不可能ナルノミナラス其ノ反動タルヤ亦
 必ス面白カラサルモノアルヘク唯日本軍占領地内ニ於テハ
 之等ノ運動カ軌道ヲ越ヘ現地英人ノ身体財産ニ對スル直接
 ノ危害ヲ與フルコトナキヤウ又全般ノ治安カ之ニ依リ擾亂
 セラルル如キコトナキ様嚴ニ取締ヲ行ヒ居リ又其ノ方針ハ
 將來トモ變ルヘキ筈モナシ今回ノ會談カ圓滿ニ行ハレ日英
 間全般ノ空氣カ改善セラルルコトモナラハ支那ニ於ケル
 反英運動モ次第二自然消滅ヲ遂クルニ至ルヘキハ極メテ明
 白ナル事態ニシテ貴方ニ於テハ會談ヲ促進スルカ爲ニ反英
 運動ヲ取締レト言ハルルモ日本側ニ於テハ會談ノ完結カ反

英運動ノ自然消滅ナリト考フルモノニテ兩國ノ見解ハ恰モ
 遇合セサル環ヲ繞リ居ル如キモノナルカ御申出ノ點ニ付更
 ニ政府トシテモ十分考慮セラルルヤウ自分ヨリ可然話ヲナ
 シ置クヘシ

~~~~~

1581

昭和14年8月14日

有田外務大臣より  
 在天津田代総領事宛(電報)

容疑者を引渡すとの英国側申し出に対し現地  
 軍の意向照会方訓令

本省 8月14日後8時発

第二九九號(極秘)

十四日加藤公使求ニ依リ「クレীগー」ト私的會談ヲ爲シ  
 タル際「ク」ヨリ問題ノ四名ノ犯人ヲ現地ニ於テ出來得ル  
 限り速カニ引渡シタシトシ實ハ本國ニ於テ種々本件ニ關シ  
 反對運動アリ且人身保護令等ヲ援用シ引渡決定ヲ覆サント  
 スル策謀モアルヤニ認メラルルヲ以テ英國政府トシテハ一  
 日モ早ク本件ヲ終結シ度キ意嚮ヲ有シ居ルモノニシテ日本  
 新聞等ノ憶測スルガ如ク右措置ヲ會談ノ掛ケ引キニ利用セ  
 シメントスルガ如キ意毛頭無キ旨釋明セリ

本件引渡ハ其ノ時期必ズシモ會談全体ノ進行ト步調ヲ合セサル嫌ナキニアラサルモ建前上問題ノ四人ハ引キトルベキモノナレバ此ノ際淡白ニ英側申出ヲ受諾シ差支ヘ無シト認メラルル處右軍側トモ御打合ノ上貴見至急回電アリタシ北京、上海ヘ轉電セリ

1582

昭和14年8月14日

有田外務大臣より  
在北京堀内大使館參事官、在天津田代  
總領事他宛(電報)

武藤參謀副長ら現地軍代表帰任について

本省 8月14日後8時30分發

合第一九一七號

十四日武藤少將以下軍側現地代表ハ豫定通飛行機ニテ歸任ノ途ニ著ケリ尙一行ハ十五日北京着ノ豫定ナル趣ナリ

本電宛先、北京、上海、天津、英

1583

昭和14年8月15日

有田外務大臣より  
在北京堀内大使館參事官、在天津田代  
總領事宛(電報)

加藤・クレギー會談において英國側が天津  
租界問題に関する回答期日を言明について

本省 8月15日後9時10分發

合第一九三二號

十四日ノ加藤「クレギー」私的會談ノ際公使ヨリ武藤少將一行ハ豫定ノ通歸任ノ途ニ著キタルガ會談ノ情勢ニ依リ必要ナル場合ハ又出京スベキコトヲ説明シタル後經濟問題ニ關スル回訓ニ關シ「ク」ノ意見ヲ敲キタル處「ク」ハ本國政府ニ於テハ今般右問題ニ關シ佛國側ヨリノ回答ヲ受領シ改メテ米國側ト協議ヲ爲シ居ル趣ニ付多少裕ヲトルモ十七日迄ニハ受領スルモノト想像セラルト答ヘ更ニ二十二日「ハーバート」ヨリ田中ニ提出シタル治安問題ニ關スル英國側案ニ對スル我方意見ヲ尋ネタルヲ以テ公使ヨリ目下研究中ナル旨答ヘ置キタリ

尙「クレギー」ヨリ支那ニ於ケル反英運動ニ關シ更ニ現地ヨリ種々ノ情報ヲ接到セルガ右ノ中ニハ確實ニ軍報道部等ヨリノ指示ニ基キ支那側警察ガ中心トナリ居ルトノ報道モアリト述ベタルヲ以テ公使ヨリ支那民衆ノ反英感情ハ現地ニ於ケル英國側官民從來ノ行動ニ由來スルコトヲ説明シ



日英關係が全般的ニ改善セラルレバ右ハ自然消滅スベキ旨  
及帝國軍ハ從來トモ治安攪亂ナルガ如キ行動又ハ第三國  
人ノ生命財産ニ直接危害ヲ與フルガ如キ行動ニ付テハ嚴重  
取締ヲ行ヒ居リ日本官憲力反英運動ヲ使喚シ居ルカ如キコ  
トハ全然アリ得ザルコトナルガ今般更ニ日英關係ノ大局の  
見地ヨリ關係諸機關ニ可然訓令アリタル次第ヲ説明シタル  
處「ク」ハ非常ニ喜ヒ早速之ヲ本國政府ニ傳ヘ會談ノ促進  
ニ供シタシトテ感謝ノ意ヲ表シ居タル趣ナリ

本電宛先、北京、天津

上海ヘ轉電セリ

1584

昭和14年8月15日

在北京堀内大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

武藤參謀副長らの東京引揚げに對し過激な反  
英運動が起きぬよう指導方各地部隊へ方面軍  
司令部より命令について

第九二八號(極秘)

北京 8月15日後発  
本省 8月15日夜着

當地軍司令部ニテハ武藤少將ノ東京引揚げ機會ニ各地ニ於  
ケル排英運動等カ急ニ盛トナルヘキコトヲ豫想シ居ルモ目  
下ハ其ノ時機ニアラストノ見解ヨリ十四日軍司令部ヨリ各  
現地部隊ニ對シ要旨左ノ通り通報セリ

「軍事的性質ヲ有スル東京會談力速ニ解決セラルヘキモノ  
ナルニモ拘ラス英國側ハ國際情勢竝ニ我國内情勢力有利ニ  
展開スルヲ待ツ爲故意ニ遷延策ヲ執リ居ル態度ナルヲ以テ  
軍代表トシテハ此ノ際更ニ英國側ノ反省ヲ促シ我方要求ヲ  
承認セシメントノ考慮ヨリ引揚げニ決セル次第ニシテ右引揚  
ハ直ニ會談ノ決裂ヲ意味セス而シテ今回ノ交渉ヲ成功セシ  
ムルハ依然我方ニ有利ト思考セラルルニ付英國側ニシテ反  
省シテ誠意ヲ披瀝シ交渉ノ成功確實ナリトノ見透付カハ軍  
ハ更ニ會談ヲ續行スル計畫ナリ從テ反英運動及租界隔絶ハ  
右引揚げ契機トシ直ニ急激ナル強化ニ移ルコトナカラシム  
ル如ク指導セラレタシ」

本件其ノ儘外部ニ發表ナキ様取計度シ  
在支各總領事、芝罘、石家莊、太原ヘ轉電セリ



昭和14年8月15日  
在北京堀内大使館参事官より  
有田外務大臣宛(電報)

## 中国における反英運動への対処方針に關し軍

### 側と意見一致について

北京 8月15日後発  
本省 8月15日夜着

### 第九二九號(極秘)

貴電合第一九〇五號ニ關シ(支那ニ於ケル排英運動ニ關スル件)

今次反英運動ニ關シ當館ニ於テハ特ニ左記ノ諸點ニ重點ヲ置キ軍側トモ連絡シ之カ徹底ニ努メ居ル處軍側ニテモ左記諸點ニハ全ク同感ニテ司令部ヨリ各現地部隊ニ對スル訓令ニモ英國人ニ對スル直接行動差控方訓令シ居レリ又當館ニ於テハ支那官憲又ハ個人ノ英國人使用支那人ニ對スル脅迫又ハ加害行為ニ關シテモ單ナル脅迫程度ナラハ兎モ角甚シキ加害殊ニ右使用支那人ノ家族又ハ財産ニ對スル加害行為ハ少クトモ現在ノ段階ニ於テハ其ノ時期ニアラスシテ此ノ點充分支那側指導ノ要アリト存スル處軍側ニ於テモ大體同意見ナリ

### 記

(一)日本人ノ反英運動ハ英國人ノ身體財産ニ危害ヲ及ホスカ如キ直接行動ヲ嚴ニ戒ムルコト

右直接行動ハ我方立場ヲ不利ナラシメ運動ノ效果ヲ著シク減殺ス運動ハ飽迄紳士の且合法的ニ行ヒ我方不退轉ノ隱然タル決意ヲ表明スルヲ以テ得策トス

(二)支那人ノ反英運動モ能フ限り(一)ノ如キ直接行動ヲ爲ササル様指導スルコト

支那人ノ直接行動ト雖運動ノ效果ヲ「ミニマイズ」スル點ニ於テ略(一)ト同様ニシテ且東京會談中英國側神經ヲ無闇ニ刺戟スルコトハ策ノ得タルモノニアラス殊ニ蔣政權竝ニ共產黨側ハ日本ノ國際關係惡化(特ニ對米關係)ヲ目的トシ支那人ノ反英運動ヲ利用スル惧多分ニアリ此ノ種不逞分子ノ陷穽ニ陥ラサル様戒心シ支那側指導ノ要アリ

(三)支那側反英運動實行者ニ對シ充分注意スルコト  
前記(二)ノ點ヨリ運動實行者ノ指導ノ地位ニ在ル者ハ素ヨリ不和雷同ノ徒ニ至ル迄能フ限り注意シ前記不逞分子ヲ交ヘサルヲ要ス直接行動ヲ爲シタル者ニ關シテハ其ノ思想的傾向ヲ取調ノ要アリ

(四)反米運動ハ日本側又ハ支那側ノ何レニ依ルヲ問ハス嚴ニ之ヲ取締ルコト

刻下ノ國際情勢上日米關係調整ハ最緊要事タリ聖戰目的達成ノ大ナル目標ヨリセハ何等重要性ナキ小事件ノ勃發ハ之ヲ避クルト共ニ實行者及形式ノ如何ヲ問ハス反米運動ハ嚴ニ取締リ特ニ(二)ノ不逞分子ノ策動ヲ徹底的ニ彈壓ス

右前電ト重複ノ點アルモ御參考迄  
在支各總領事、芝罘へ轉電セリ

1586

昭和14年8月16日  
在北京堀内大使館参事官より  
有田外務大臣宛(電報)

### 英国側の容疑者引渡しに現地軍異存なき旨報告

北京 8月16日後発  
本省 8月16日夜着

第九三二號(極秘)

貴大臣發天津宛電報第二九九號ニ關シ(程錫庚暗殺犯人引渡ノ件)

本件犯人引取ニ關シ當方ニ於テモ本省ト同意見ニテ當地軍

司令部ニ連絡セル處司令部ニテモ何等異存ナク天津本間部隊モ異存ナキ筈ナリトノ回答アリタリ

尙本件ノ發表ニ關スル取扱ハ相當注意ヲ要スヘク寧口極メテ事務的ニ取扱ヒ餘リニ積極的ナル宣傳又ハ辯解ニ亘ラサル方可ナルヤニ存セラル  
天津、上海へ轉電セリ

1587

昭和14年8月17日  
有田外務大臣より  
在英國重光大使宛(電報)

### 天津租界問題に関する回答を遅滞なく発する

### よう英国側関係筋へ申入れ方訓令

本省 8月17日後8時30分発

第二四五號(極秘)

天津租界具体問題ニ關スル東京會談ハ主トシテ經濟關係事項ニ關シ英國側ニ難色アリタルガ右ニ關スル客月二十八日ノ會談以來引キ續キ加藤公使ト「クレイギー」トノ間ノ私的會談ニ於テ我方ノ最後の要求ヲ明示シ英國側ノ回答ヲ求メタルニモ拘ハラズ英國側ハ時ニ第三國トノ協議ヲ又時ニ現銀問題ニ關シ法律上ノ手續ノ困難ヲ云々シ以後二週間ヲ

越ユルモ回訓無ク爲ニ會談ハ全ク停頓ノ狀況ニ陥リ十七日ノ加藤「ク」會談ニ於テモ何等事態展開ノ曙光ヲ發見シ得ザリシ次第ナリ

然ルニ一方現地軍代表ハ會談再開ノ見透シツカザリシ爲既ニ引キ舉ゲ居リ此ノ上事態ヲ遷延セシムル時ハ勢ヒ現地ノ空氣ヲ惡化セシメ支那ニ於ケル排英運動ノ激化及天津ニ於ケル檢問措置ノ強化ヲ來タス惧アリ右事態ニ移行スルコトハ政府トシテモ出來得ル限り避ケ度キ希望ヲ有シ種々措置シ居ル次第ナルモ勢ノ赴ク所憂フベキ事態ヲ惹起スル惧モ有之ニ付右御含ノ上貴大使ヨリ適當筋ニ對シ大局的見地ヨリ英國政府ニ於テ本件回訓ヲ遲滯ナク發スル様至急御申入相成結果回電アリタシ

北京、天津、上海ニ轉電セリ

1588

昭和14年8月18日

有田外務大臣より  
在北京堀内大使館參事官、在天津田代  
総領事宛(電報)

クレギー大使が種々理由を述べて天津租界

問題の回答遅延を弁明について

合第一九四九號(大至急)

往電合第一九三二號ニ關シ

本省 8月18日後3時發

八月十七日加藤公使求メニ依リ「クレギー」ト會談シタルガ先ツ「ク」ヨリ先般多分十七日迄ニハ回訓アルベシトセルモ今尙之ヲ受領セザルノミナラズ差當リ其ノ見込モ立タザル次第ナリトシ經濟問題ニ關シテハ第三國トノ協議モサルコト乍ラ問題ソレ自体カ複雑ナル爲停頓シ居ル譯ナリトシ銀問題ニ關シ先般本國ニ請訓セシ手續ニ依ルモ本國政府ニ於テハ法律上瑕疵アルヤニ思考シ居ルトモ想像セラレ右ニ關シ英國政府トシテハ重慶側ガ本件ヲ海牙ノ司法裁判所ニ訴ヘ出ルコトノ可能性モ考慮ニ入レルヲ要スベク且其ノ外政治的ニハ此ノ際重慶側ニ不利ナル措置ヲ英國側力執ルハ公平ナル政策ニ反スルコトナルベク又間接ニ臨時政府ヲ承認スルカ如キ結果トモナリ英國政府トシテモ種々ノ非難ヲ蒙ルベク從テ會談ヲ成功セシメ度シトノ精神ニハ變リ無キモ簡單ニ決定シ得ザル次第ナルベシト陳辯セリ仍テ公使ヨリ所有權問題ト謂フモ結局支那人間ノ問題ニシテ之ヲ決定スルモノガ租界當局若クハ英國政府ニアラザルコト

ハ問題ノ四人ノ犯人ト同様ナル所以ヲ述べ重テ事實上ノ困難ナル點ハ何トカ之ヲ乗越ヘ大局の見地ヨリ本件ノ處理ヲ圖ルコト必要ナルベシトシ會談ノ遷延ハ其ノ成果ヲ減少セシムル所以ヲ指摘セリ

右二對シ「ク」ハ自分トシテハ此ノ上トモ出來得ル限りノコトハ爲スベキモ此ノ上政府ヲ督促スルモ效果無キヤニ考慮シ居ル次第ナリトシ嚮ニ治安經濟兩問題ノ分離ヲ申出タルガ右ハ既ニ撤回シ一括妥結ニ達シ度シトシ居ルモノニ付治安問題ニ關スル取極案ニ付意見ヲ交換シ置クコト好都合ナルベシトシ右ニ關シ曩ニ日本側ヨリ提出セラレタル「フオーミユラ」ハ如何ニモ英國側力強要ヲ受ケ居ルガ如キ形ナレバ出來得ル限り非公式ナ形式ニテ且英國側ノ面子ヲ損傷セザルガ如クスルヲ希望スル旨述べタリ

宛先轉電先冒頭往電通

1589

昭和14年8月18日

有田外務大臣より  
在北京堀内大使館參事官、在天津田代  
総領事宛(電報)

天津租界問題の回答を英国側が更に遷延する

場合現地軍は檢問檢索続行以外いかなる措置  
を考慮しているか確認方訓令

本省 8月18日後8時30発

合第一九五九號(極祕)

往電合第一九四九號ニ關シ

英國側力從來ノ態度ヲ變更シ種々ノ口實ヲ設ケ遷延シ來リタルハ帝國政府ノ「對歐策」ニ對スル牽制及自國ノ對歐洲政策トノ關聯ニ因ルヤニモ想像セラルル處當方トシテハ此ノ上トモ英國側ヲ督促スベキハ勿論ナルモ(英宛電報第二四五號參照)萬一英國側ガ今後トモ誠意ヲ示サザル場合現地軍側ニ於テハ檢問措置ヲ續行スル外他ニ如何ナルコトヲ考慮シ居ルヤ右貴官自身ノ發意ニ依ル形ニテ一應御確メノ上結果回電アリタシ(部外祕)

本電宛先、北京、天津

1590

昭和14年8月18日

有田外務大臣より  
在北京堀内大使館參事官、在天津田代  
総領事宛(電報)

治安問題での協定締結には応じるが現銀および

び通貨問題は英国单独での協議不可能との英  
国側回答をクレギー大使提出について

付記一 右回答

二 右回答和訳文

三 昭和十四年八月十八日(午後二時開始)

加藤公使・クレギー大使会谈要旨

四 昭和十四年八月十八日(午後六時開始)

加藤公使・クレギー大使会谈要旨

本省 8月18日後11時発

合第一九六一號

往電合第一九四九號ニ關シ

十八日加藤公使求ニ依リ「クレギー」ト會談シタル處  
「ク」ハ本國政府ヨリノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ別電合第一九  
六二號<sup>(編注)</sup>ノ書物ヲ提示シタルヲ以テ加藤ヨリ當方ヨリモ追テ  
右ニ對スル我方ノ意見ヲ正式ニ述ブベキモ前記英國側書物  
末段ノ治安問題ト經濟問題トヲ引キ離サントスル英國側提  
案ハ我方ニ於テハ既ニ屢々明カニシタル如ク到底受諾スル  
能ハザル所ニシテ又第三國トノ協議ノ件ニ關シテモ今次會  
談ハ最初ヨリ英國ヲ對手トシ商議シ來リタルモノニシテ第

三國ヲ含ム國際會議ノ如キ考ハ問題トモナラザル旨爲念ニ  
申聞ケタル上我方トシテハ英國側ノ經濟問題ニ關スル回答  
ガ至急到着スルヲ期待スルモノナルモ右ノ遅延ハ現地ノ事  
態ヲ愈々惡化セシムルノミナラス會談全体ノ成果ヲ著減セ  
シムルニ至ル所以ヲ重テ強調シ置キタリ

尙別電ノ内容ハ更ニ取極ニ達スル迄發表セザルコトニ打合  
セタリ

本電宛先、北京、天津、轉電上海

編注 別電合第一九六二号は、本文書付記一の英国回答を若

干削除して發電したものであるため省略。

(付記一)

His Majesty's Government have now examined with  
great care all the proposals put forward by the Japanese  
Representatives. As the latter are aware, His Majesty's  
Government entered into the conversations on the  
understanding that they would concern local Tientsin  
issues only.

They have in the first place sympathetically considered all police matters covered by Points 1-8 in the Agenda submitted by the Japanese Government and, having regard to the spirit of the formula of July 22nd and their genuine desire to facilitate cooperation in questions affecting the maintenance of public order, they have now made considerable progress towards the conclusion of an agreement on these points, subject for final settlement of the points of detail explained in the memorandum communicated on Saturday, 12th August.

As regards Points 9 and 10 (currency and silver) it was immediately apparent that their scope exceeded what might properly be termed local Tientsin issues and that they related to other economic and financial features of the present situation in North China on which not only His Majesty's Government but certain other Governments have expressed to the Japanese Government their views. (Points 11 and 12, in that they are concerned with implementation and supervision of any measures agreed to

under 9 and 10, must be classified with the latter two points). Nevertheless His Majesty's Government in their earnest desire to meet the Japanese point of view have had under close consideration what could be done to meet the Japanese proposals.

After the preliminary sounding which they have taken His Majesty's Government have, however, found that in questions of currency and silver, apart from the natural Chinese interest in this question, other foreign interests are concerned to an extent which renders agreement as between His Majesty's Government and the Japanese Government alone impossible. For this reason His Majesty's Government cannot by themselves properly put forward or accept any proposals on these matters which might prejudice the interests of Third Parties.

In these circumstances it seems to His Majesty's Government that no discussions of these economic issues on a purely Anglo-Japanese basis are likely to lead to a useful result. Should the Japanese Government, however,

wish to proceed further with these proposals His Majesty's Government would be willing to examine them afresh, provided that arrangements can be made by which the interests of all parties can be safeguarded. For this purpose they would be obliged to consult with and have regard to the views of the Third Parties concerned.

His Majesty's Government do not wish the Japanese Government to suppose from this indication of their attitude that they desire to shelve the questions which the Japanese Government have raised. Indeed His Majesty's Government recognise that in any ultimate settlement of the present dispute in China these matters will need to be fully discussed in relation to the conditions existing throughout China. His Majesty's Government have already made it clear in their note to the Japanese Minister for Foreign Affairs dated January 14th, 1939, that they do not contend that treaties are eternal and that they are prepared to consider any constructive suggestions which the Japanese Government may have to make regarding the

modification of the existing agreement. It is in their view, however, essential that all parties to the Nine Power Treaty and other treaties which govern the situation in China shall be enabled to express their views and make a contribution to a settlement equitable to all concerned.

His Majesty's Government hope that the Japanese Government will not feel it necessary to delay the conclusion of the agreement on local issues which they for their part would be prepared to conclude now (subject to adjustment of points of detail) and in return would anticipate the cessation of any Japanese support for anti-British agitation in North China and the raising of the blockade to put the agreement into immediate execution.

(付記1)

昭和十四年八月十八日(亜一)

天津租界問題ニ關シ八月十八日在京英國大使カ

加藤公使ニ手交シタル書物要譯文

英國政府ハ日本側代表ヨリ提出セラレタル提案ヲ最モ注意



深く検討シ來レリ英國政府ハ日本側代表カ了知シ居ル如ク  
今次會談カ單ニ天津局地的問題ニ關スルトノ了解ノ下ニ參  
加シタルモノナリ

英國政府ハ先ツ日本政府ヨリ提出セラレタル議題一ヨリハ  
二亘ル凡テノ警察事項ヲ好意ヲ以テ考慮シ且七月二十二日  
ノ原則ノ精神及治安維持關係問題ニ關スル協力ヲ便宜ナラ  
シメントスル其ノ信實ノ冀求ニモ鑑ミ八月十二日土曜通達  
シタル覺書ニ説明シアル細目ノ諸點ノ最後の取極ヲ條件ト  
シ前記問題ニ關スル協定締結ニ向ヒ相當ノ進捗ヲ爲シ來リ  
タルモノナリ

議案九及十(通貨及銀)ニ關シテハ其ノ範圍ハ天津局地問題  
ト正確ニ稱シ得ル所ヲ逸脱シ居リ且右ハ北支ニ於ケル他ノ  
經濟金融狀況ノ現實ノ事態ニ關聯スルモノナルコトハ直ニ  
明白トナリシモノニシテ右ニ關シテハ英國政府ノミナラス  
或ル他ノ政府モ其ノ意見ヲ日本政府ニ表示シタルモノナリ  
(議題十一及十二ハ議題九及十二關シ取極ラレタル措置ノ  
履行及取締ニ關スルモノナルヲ以テ後者ト共ニ類別セラル  
ヘキモノナリ)右次第ニモ拘ハラス英國政府ハ日本側主張  
ヲ満足セシメントスル熱心ナル冀求ノ下ニ如何ニシテ日本

側提案ニ接近シ得サルヤ慎重ナル考慮ヲ爲シ來レリ

然ルニ英國政府ハ其ノ豫備的探求ノ後通貨ト銀ニ關スル問  
題ニ付テハ右ニ關スル支那側當然ノ利害關係ヲ別トスルモ  
他ノ第三國ノ權益カ之ヲ日英兩國政府間ノミニテ協定スル  
ヲ不可能トスル程度迄關係アルヲ發見セリ右理由ニ依リ英  
國政府ハ第三國ノ權益ニ害ヲ與フルヤモ計ラレサル本件ニ  
關スル如何ナル提案ヲモ單獨ニ提示シ又ハ受諾スル能ハサ  
ルモノナリ

斯ル狀況ノ下ニ英國政府ハ右經濟問題ヲ單純ナル日英兩國  
間ノ基礎ノ上ニ論議スルハ有益ナル結果ニ到達スル可能性  
無キヤニ認ムルモノナリ左レト日本政府カ右提案ヲ以テ會  
談ヲ續行セントスル場合ニハ英國政府ハ凡テノ關係當事者  
ノ權益カ保障セラルルカ如キ取極カ爲シ得ル條件ノ下ニ之  
ヲ新タニ審議スル用意アルモノナリ右目的ノ爲英國政府ハ  
關係第三國ト協議シ其ノ見解ヲ顧慮スル必要アルモノナリ  
英國政府ハ右態度ノ表明ニ依リ日本政府ノ提起シタル問題  
ヲ英國政府カ放置セント望ミツツアリト日本政府カ想像セ  
ラルルコトヲ欲スルモノニアラス英國政府ハ支那ニ於ケル  
現在ノ紛争ノ終局的解決ノ爲之等事項ヲ支那全般ニ亘ル現

存狀況ト關聯セシメ充分論議スルノ必要ヲ認識スルモノナリ英國政府ハ一九三九年一月十四日ノ帝國外務大臣ニ對スル書翰ニ於テ既ニ條約カ永久的ノモノナルコトヲ主張セス且現存協定ノ改正ニ關シ日本政府カ執ルヘキ凡テノ建設的提案ヲ考慮スル用意アル旨明カニセリ然レトモ英國政府ノ見解ニ依レハ九國條約及支那ノ狀態ヲ規定スル他ノ條約ノ凡テノ關係國カ其ノ見解ヲ表示シ且關係當事者凡テニ對シ公平ナル解決ニ寄與セシムルコト必要ナリトスルモノナリ英國政府ハ英國側カ現在締結スル用意アル局地問題ニ關スル協定ノ締結細目ノ點ニ關スル訂正ノ條件ノ下ニワ日本政府カ遲滯スルヲ必要ナリト認メサランコトヲ希望スルモノニシテ右ニ對應シ北支ニ於ケル反英示威運動ニ對スル日本側支持ヲ中止シ且檢問措置ヲ解除シ取極ヲ直チニ實施ニ移シ得ルコトヲ期待スルモノナリ

### (付記三)

天津問題ニ關スル加藤公使、「クレーギー」大使  
會談要旨

(昭和一四、八、一八 亞一)

八月十八日午後二時先方ノ求メニヨリ次官官邸ニ於テ加藤公使「クレーギー」大使ト會談セリ要旨左ノ通

「クレーギー」大使ヨリ本國政府ヨリ訓令カ到着シタケレトモ先般來吾々カ申合ハセテ居タモノト大分違ツタモノデアツテ失望シテ居ル次第アルカ是ハ英國政府ノ訓令ニ基イテ正式ニ日本代表タル貴官ニ御渡シタイノテアルト述ヘ別紙<sup>(編註)</sup>ノ書物ヲ手交シタ仍テ詳細ニ熟讀シタル後

加藤公使ヨリ此ノ書物ニ現ハサレタル英國政府ノ見解ハ曩ニ貴大使カ會議ノ席上ニ於テ述ヘラレタルモノヲ殆ト其ノ儘繰返シタルニ過ギナイ事柄ヲ非常ニ高イ調子テ述ヘタモノト思考セラルルカ是テハ吾々カ過去數週間ニ亘ツテ屢々意見ノ交換ヲシタ處トハ全然調子カ違ツテ來タト見ル外ナク英國政府ハ恰モ時計ヲ一ヶ月後<sup>(前註)</sup>ニ戻シタヤウナモノト考ヘラレルカ一二ノ點ニ付テ所見ヲ述ヘレハ此ノ書面ニ依ルト經濟問題ハ天津ノ局地問題トハ違フカラ今回ノ會談ニ於ケル討議ノ題目トスルニハ不適當テアルト云フコトヲ述ヘラレテアルカ此ノ問題ハ貴大使モ御承知ノ通り會談ノ當初ニ於テ貴大使ト有田大臣トノ間ニ充分意見ヲ交換セラレタ結果經濟問題モ本會談ニ於テ討議スルニ決定シタ譯デアツ

テ今更之ニ文句ヲ付ケラレルコトハ日本側トシテハ了解ニ  
苦シム處テアル旨述ヘタル處

「クレーギー」大使ハ經濟問題ヲ論議ノ外ニ置クト云フコ  
トヲ此ノ書面ニ於テ明白ニ言ツテ居ルノテハナイト理解ス  
ル唯經濟ノ問題ハ會談開始ノ際有田大臣ニ自分カラモ充分  
述ヘテ置イタ通り本來ノ天津地方問題トハ考ヘラレナイノ  
ミナラス問題自身カ非常ニ複雑テアルカ故ニ會談ニ於テ討  
議スルコトハ必シモ適當ト考ヘラレナイケレトモ日本側ニ  
於テ是非トモ經濟問題ヲ討議シナケレハナラナイト云フ強  
イ希望カアツタノテ之ニ同意ヲ表シタヤウナ次第デアリ  
元々此ノ種複雑ナ問題ハ他ノ機會ニ於テアルコトカ相應シ  
イノ云フコトハ何人モ考ヘテ居ル處デアツテ政府ハ唯其ノ  
意味ノコトヲ此ノ書面ニ表シタニ過キナイノデアリ此ノ問  
題ヲ全然會談ノ外ニ置カウトハ考ヘテ居ナイコトハ此ノ書  
面ノ後段ニ於テモ明瞭テアルト考ヘル旨ヲ述ヘタ  
加藤公使カラソレハソレトシ英國側ハ第三國ト利害關係ノ  
深い問題テアルカ故ニ經濟問題ニ關シテハ第三國ト協議ヲ  
シナケレハナラナイト考ヘラレルコトニ付テハ日本側トシ  
テモ異存ノ申ヤウカナイ處テアルカ先般來屢々述ヘタル通

リ今回ノ會談ハ經濟問題ヲモ含ミ單ニ日英兩國間ノ會談ト  
シテ兩國間ニ合意ヲ得タイト云フノカ日本側ノ強イ主張テ  
アリ只今渡サレタル文書ノ語調カラ察スルト英國政府ハ日  
英會談ニ他ノ關係第三國ヲモ加ヘテ共ニ協議ヲシヨウト云  
フ心持カアル様ニ思ハレルカ此ノ事ハ是レ迄屢々申述ヘタ  
通り日本側ニ於テ絕對ニ同意ヲ表スルコトノ出來ナイ點テ  
アルカラ其ノ由本國政府ニ明白ニ御傳ヘヨ戴キタイト述ヘ  
タル處

「クレーギー」大使ハ第三國トノ協議ノ問題ニ關シテハ英  
國側ニ於テハ絕對ニ必要デアツテ單ニ日英兩國政府タケテ  
決定シ得ナイモノテアルコトハ屢々申述ヘタ處デアリ唯日  
本側ニ於テ他ノ關係國ヲ介入セシムルコトヲ反對セラルル  
カ故ニ英國トシテハ自己ノ立場上日本政府ノ希望ニ應セン  
カ爲會議トハ獨立ニ關係諸國ト協議ヲ遂ケ居ル次第デアツ  
テ此ノ文面ニ依ルモ必シモ第三國ヲ此ノ問題ノ討議ニ介入  
セシメヨウト云フ明白ナル意思表示トハ自分ニ於テモ解釋  
スルコトハ出來ナイ

次ニ加藤公使カラ尙此ノ中ニ九國條約ニ關スルコトヲ述ヘ  
ラレテアルカ此ノコトハ自分トシテハ初耳デアリ未タ曾テ

吾々ノ會談ニ於テ九國條約カ如何ニ關係スルカト云フ様ナ  
コトニ付意見ヲ戰ハシタコトハナイノテアリ何故今日ニ至  
ツテ突然斯ノ如キ問題ヲ英國政府カ今回ノ書面ノ上ニ持チ  
出サレタカト云フコトハ自分トシテモ了解シ難イ處テアリ  
斯様ナモノヲ今頃持チ出サレル様テハ英國政府ニ於テ果シ  
テ此ノ會談ヲ從來ノ「スコープ」ニ於テ續ケテ行カウト云  
フ意思ヲ持ツテ居ラレルノカトウカヲ疑ハサルヲ得ナイ九  
國條約ニ關シ日本政府カ如何ナル見解ト態度ヲ持ツテ居ル  
カハ貴大使ニ於テモ從來ノ交渉ニ於テ充分御承知ノ筈テア  
ルト述ヘタ

「クレギー」大使ヨリ何故茲ニ九國條約ノコトヲ持チ出  
シテ來タカ自分ニ於テモハツキリ判ラナイノテアルカ察ス  
ルニ通貨ノ問題ノ如キハ單ニ天津地方ノミナラス支那全般  
ニ關係ノアル問題テアリ此ノ問題ヲ最後のニ決定スルカ爲  
ニハ自ラ九國條約トノ關係ニ付テモ考慮ヲ拂ハナケレハナ  
ラナイト云フ極メテ間接的ナル意味ト自分ハ解シテ居ルト  
述ヘ

加藤公使ハ此ノ中ニ九國條約ノ關係各國カラノ意見ヲ聽取  
シナケレハナラナイト云フコトカ書イテアルカ現銀及通貨

ノ問題ニ關シテ從來英國政府ハ米佛兩關係國政府ニ協議シ  
テ居ルモノト了解シテ居ツタカ今や英國側ニ於テハ獨リ米  
佛二國ノミナラス他ノ諸國ニ對シテモ同様ノ協議ヲ爲ス意  
味テアルカトウカト尋ネタル處

「クレギー」大使ハ其ノ點ハ自分モ確言ハ出來ナイケレ  
トモ其ノ意味テナイト云フコトヲ強ク信シテ居ル現銀及法  
幣ノ問題ニ關シテ協議シテ居ルノハ米佛二國タケテアツテ  
其ノ他ノ國ニ對シテハ此ノ際何等話合サレテ居ナイモノト  
了解シテ居ルト述ヘタ

加藤公使ヨリ末段ノ治安問題ノ完結ノミヲ以テ本會談ヲ打  
切り天津ノ隔離問題等モ終熄セシムル様トノ英國側ノ希望  
ハ數週間前カラ貴大使ヲ通シテ度々述ヘラレタ處テアルカ  
ソレハ日本側トシテハ絕對ニ同意スルコトカ出來ナイコト  
ヲ其都度申述ヘテ置イタノテアルカ此ノ際更ニ此問題ヲ蒸  
返シテ英國側カラ申出ラレタル理由ヲ了解スルニ苦シム處  
テアルト述ヘタ

「クレギー」大使ハ此ノコトニ關スル日本側ノ意見ハ本  
國ニモ充分知ラセテ居ル譯テアルカ自分ノ見ル處ニ依レハ  
英國内ニ於テ此ノ希望カ相當強ク表明セラレテ居リ關係ノ

筋カラ政府ニ對シテ警察問題ノ完了ヲ以テ天津事件ヲ終結セシムル様日本側ニ正式ニ提議セヨト云フ聲カ非常ニ強ク政府トシテハ其ノ意味ノ申出ヲ一應シテ置カナケレハナラヌト考ヘタカ故ニ今回ノ文書ノ中ニ特ニ書イタモノテアルト思ハレル尙「クレীগー」大使カラ此ノ文書ハ英國政府ニ於テ近ク公表シタイト云フ希望ノ様テアルト説明シタノテ

加藤公使カラ此ノ種ノ文書ヲ公表セラルルコトハ會議ヲ成功ニ終ラス爲ニハ非常ニ有害ナルコトテアツテソレハ會議決裂ノ一步手前テアルト云フ印象ヲ世間ニ與ヘルモノテアリ英國側ニ於テ之ヲ公表セラルル場合ニハ日本側ニ於テモ亦之ニ對應シタル聲明ヲ發セナケレハナラナクナリ結局會議ハ收拾シ難キ事態トナル惧レアリト述ヘタカ其點「クレীগー」大使モ同意テアリ其ノコトヲ本國政府ニ至急ニ通報シヨウト考ヘテ居ル旨ヲ述ヘタ後此ノ様子テハ暫ク會談ヲ中止シ事態ノ推移ヲ見ル外ニ方法カナイト思考セラルト申出タノテ加藤公使カラ此ノ點ニ關シテハ政府ト一應相談ヲ爲シ會議ノ今後ノ進メ方ヲ如何ニスヘキカニ關シ改メテ日本側ノ意見ヲ述ヘ度旨述ヘ後刻再會ヲ約シテ別レタ

編 注 本文書付記一として採録。

(付記四)

八月十八日午後六時當方ノ求メニ依リ加藤公使「クレীগー」大使ト次官官邸ニ於テ再會

加藤公使カラ先刻手交セラレタル英國政府ノ書面ヲ詳細ニ檢討シタカ從來貴大使トノ間ニ進メ來ツタ協議振リト此ノ書面ノ調子トノ間ニハ相當大キナ開キカアリ日本側ニ於テ英國政府ノ意圖カ何レニアリヤ了解ニ苦シム處テアツテ其ノ調子ノ高イコト其ノ内容ノ明瞭ヲ欠クコト等ヲ合セテ非常ニ惡イ印象ヲ以テ之ニ接シタ譯テアリ自分カ先程指摘シタ第一ノ經濟問題ト治安問題トヲ切り離シテ治安問題タケテ本會談ヲ打切り天津事件ヲ終熄セシメヤウト云フ英國側ノ主張ニ對シテハ全然同意スルコトカ出來ナイ第二ニ英國側ニ於テ第三國ト協議セラルルコトハ止メ様モナイケレトモ第三國ヲ會談ニ加ヘルカ如キコトヲ目圖トスルコトハ日本側ニ於テ同意スルコトハ出來ナイト云フコトヲ正式ニ政府ノ名ニ於テ通告シタイト思フ尙英國側文書ノ中ニ九國條

約ヲ引用セラレテ居ル部分ハ其ノ真意カ奈邊ニアルヤ了解  
スルコトカ出來ナイカ此ノ點ニ關シテ英國政府ノ意圖ヲ知  
ルコトカ出來レハ幸ヒテアルト附加ヘタ

「ク」大使ハ此ノ點ハ本國政府ノ意向ヲ確メテ置ク積リテ  
アルカ自分ノ解釋スル所ニ依レハ是ハ英國内ニ於テ通貨問  
題ノ如キハ支那全般ニ關係アル事項テアツテ其終局的解決  
ニ關シ日本側トノミ論議スルコトハ間違テアツテ九國條約  
ノ規定ニモ關係ノアルコト故同條約ノ關係國ニモ協議スル  
コトカ至當テアルト云フ論者カ相當ニアリ是等ノ人々ニ對  
スル政府トシテノ所懷ヲ茲ニ述ヘタニ過キナイノテアツテ  
自分ハ是ハ一種ノ國內消費ノ目的ノ爲挿入セラレタモノト  
思ツテ居ル

加藤公使カラ現銀及通貨問題ニ關シテモ米佛以外ノ九國條  
約ノ他ノ關係國ニ協議サルル意味ナリヤカト尋ネタニ對シ  
「ク」大使ハ其ノ意味デハナイト信スル旨ヲ答ヘ尙「ク」  
大使ハ自分ハ此ノ際暫ク會談ヲ休會トスルコトトシ其旨共  
同「コンムユニケー」テモ發表シテハドウテアルカト思フ  
カ此ノ點ニ關シ日本側テハ何ウ云フ風ニ考ヘテ居ラレルカ  
ト尋ネタルニ對シ

加藤公使ヨリ改メテ休會トスルト云フコトヲ世間ニ公表ス  
ルヤウナコトハ誤解ヲ與フル因トナルノテ其ノコトハ止メ  
タイ考ヘテアル旨ヲ述ヘタ

尙「ク」大使ハ銀ノ引渡ノ問題ニ關聯シテ先般申述タ自分  
ノ私案即チ天津法院ヲシテ臨時政府ノ命令ヲ強制執行セシ  
メルト云フ點ニ對シテ本國政府ニ於テハ同意シ難イト云フ  
コトヲ申送ツテ來タカ其ノ理由ハ右私案ニ依ル場合銀ノ所  
有權カ臨時政府ニ屬スルモノテアルト云フコトヲ正式ニ承  
認スル様ナコトトナリ問題ノ銀カ國民政府ニ屬スルモノテ  
アルト云フ見解ト獨立シナイノミナラス之ヲ認メルコトニ  
依ツテ臨時政府及其ノ機關ヲ承認スルヤウナ形トナルノテ  
法律上ニモ瑕瑾カアリ又政治的ニモ願ハシクナイ結果トナ  
ルト云フノテアル、自分ハ何トカシテ他ノ方法ヲ以テ此ノ  
困難ナル點ヲ回避スル道モナイカト密カニ考ヲ繞シテ居ル  
ノテアルカ結局自分一個ノ考トシテ先般申入レテ置イタ管  
理ヲ準備銀行側ニ引移スニ止メ所有權ノ問題ニ關シテハ此  
際一切觸レス從テ現銀ノ引渡後ニ於ケル處分ハ事變處理ノ  
後適當ナル支那側裁判所ニ依ツテ決定セラレルト云フ様ナ  
コトニスル外他ニ方法ハナカラウカト考ヘルノテアルカ此

ノコトニ付日本側關係者トノ間ニ何カ協議ヲ遂ケテ見ラレ  
タコトカアルカト尋ネタノテ

加藤公使カラ此ノ點ハ先日來自分一人テ色々考ヘテ居ルノ  
ミテマタ關係ノ筋トハ充分ナル協議ヲ遂ケテ居ナイ日本側  
トシテモ其ノ案テハ解決カ相當困難テアラウト考ヘテ居ル  
ノテアルカ尙充分考ヘテ見タイト述ヘテ置イタ

~~~~~

1591

昭和14年8月(18)日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

日英東京会談で天津租界現銀問題および通貨
問題を協議不可能な理由に関し英國政府声明
について

ロンドン

發

本省 8月18日夜着

特情倫敦第八九號

英國政府ハ十八日「クレギー」大使ニ對シ日英會談ノ經
濟問題ハ日英兩國間ノミテハ討議シ得ヌモノト思惟スル旨
ノ訓令ヲ發シタカ英政府官邊テハ十八日午後新訓令ノ内容
ヲ説明シ左ノ如ク聲明シタ

「東京テ進行中ノ日英會談ノ議題中治安問題ニ關シテハ可
成リ折衝カ進メラレテ居ル然シ現銀及通貨問題ニ付テハ英
國政府ハ是等ノ問題カ支那ノ現情勢ニ關スル如何ナル討議
カラモ除外スヘキテハナイコトハ常ニ認メテ居ルトハ言ヘ
結局兩問題ハ純粹ニ局地的ナ問題ト看做スコトハ不可能テ
アリ從ツテ純粹ニ日英間ノミノ基礎ニ於テ兩問題ニ關シ討
議ヲ進メテモ何等有益ナ成果ヲ擧ケ得ナイトノ結論ニ到達
シタノテアル若シ今後現銀及通貨問題カ更ニ討議サレル様
ナ場合ハ英國政府トシテハ九國條約其ノ他ノ關係條約ニ加
盟シテ居ル總テノ國カ自己ノ見解ヲ表示スル機會ヲ與ヘラ
ルヘキテアルト主張スルテアラウ」

尙英政府官邊テハ英國政府カ東京會談ニ關シ關係諸國特ニ
英佛兩國政府ト緊密ナ連絡ヲ執ツテ來タコトハ認メテ居ル
カ今次ノ訓令發送ハ獨立ニ決定サレタモノテアル旨ヲ強調
シテ居ル、更ニ官邊テハ英國政府ハ現在訓令ノ内容ヲ關係
諸國ニ通牒スル手續ヲ執ツテ居ル旨ヲ洩ラシタ

「クレギー」大使ハ十八日午後加藤公使ト會談ノ際訓令
ノ要旨ヲ傳達シタモノト見ラレテ居ル、今次ノ訓令ニ示サ
レタ英國政府ノ態度ニ鑑ミ東京會談ハ決裂トナルノテハナ

イカトノ問題ニ對シ官邊テハ治安問題ニ關シテハ折衝力満
足スヘキ進行ヲ示シテ居ル點ヲ強調シ他ノ問題ハ別ニシテ
治安問題丈ケテモ協定ヲ纏メルコト力出來ルノテハナイカ
トノ見解ヲ表明シテ居ル、尙英國政府カ九國條約會議ノ召
集ヲ考慮シテ居ルカ否カノ問題ニ付テハ官邊テハ關係諸國
ノ見解ハ會議ニ依ラストモ個別的協議ニ依ツテ諒知スルコ
トカ出來ルコトヲ指摘スル一方政府ノ今後ノ方針ハ未タ何
等確定サレテ居ナイト述ヘテ居ル

東京テ進行中ノ日英會談カ經濟問題テ難關ニ逢着シタノニ
對シ英國政府ハ久シク訓令^(令カ)ヲ出シ澁リ遷延策ニ出テテ居タ
カ十八日遂ニ「クレীগー」大使ニ對シ現銀及法幣ノ兩問
題ニ關スル訓令ヲ發シタ訓令ノ内容ハ英國政府ハ現銀及通
貨ノ兩問題カ日英兩國外ノ國家ノ利害トモ關係アルト思惟
スル故ニ兩問題ハ日英兩國間ノミノ間テハ討議シ得スモノ
ト看做ス旨日本政府ニ通告スルヤウ指令シタモノト言ハレ
ル

1592

昭和14年8月19日

有田外務大臣より
在北京堀内大使館參事官、在天津田代
総領事宛(電報)

天津租界問題に關する対日回答の内容を英本
国で公表する旨クレীগー大使通報について

付記一 右英国側公表案和訳文

二 昭和十四年八月十九日

加藤公使・クレীগー大使會談要旨

本省 8月19日後8時30分發

合第一九七〇號

往電合第一九六一號ニ關シ

十九日求メニ依リ加藤公使「クレীগー」ト會談シタル際
「ク」ヨリ往電合第一九六二號ノ訓令ノ内容ヲ二十日本國
ニ於テ發表スベキ旨述べ居リタルニ付右關係方面トモ御連
絡置キアリタシ

本電宛先、北京、天津

上海へ轉電セリ

(付記一)

天津租界問題ニ關スル件

八月二十日英國政府ノ發表案要譯文

昭和十四年八月十九日(亞一)

一、日本政府ト英國政府トノ間ノ意見ノ交換ノ結果六月二十七日天津ニ於ケル現下ノ狀態ニ關聯セル各種ノ問題ノ解決ヲ計ル爲東京ニ於テ會談ヲ開催スルコトニ合意ニ到達セリ

二、七月二十四日下院ニ於テ首相ガ宣明シタル如ク日本外務大臣ト在京英國大使トノ間ニ七月十五日ヨリ豫備的會談開始セラレタリ會談ノ開始ニ當リ日本政府ハ誤解ヲ除去シヨリ良好ナル關係ヲ樹立セシメントセバ天津ニ於ケル情勢ヲ觀察スルニ必要ナル背景ヲ承認スルヲ要スルノ意見ヲ表示セリ右見解ヲ満足セシムル爲英國政府ハ日本政府ト共ニ左ノ原則ニ關シ意見ノ一致ヲ見タリ

三、英國政府ハ大規模ノ戰鬪行爲進行中ナル支那ニ於ケル現實ノ事態ヲ完全ニ承認シ又斯カル狀態ガ存續スル限り支那ニ於ケル日本軍ガ自己ノ安全ヲ確保シ且其ノ勢力下ニ在ル地域ニ於ケル治安ヲ維持スル爲特殊ノ要求ヲ有スルコト竝ニ日本軍ヲ害シ又ハ其ノ敵ヲ利スルガ如キ一切ノ

行爲及原因ヲ排除スルノ要アルコトヲ認識ス英國政府ハ日本軍ニ於テ前記目的ヲ達成スルニ當リ之ガ妨碍トナルベキ何等ノ行爲又ハ措置ヲ是認スルノ意思ヲ有セズ此ノ機會ニ於テ斯カル行爲及措置ヲ控制スベキ旨在支英國官憲及英國國民ニ明示シ以テ右政策ヲ確認スベシ

四、同日東京ニ於テ兩國政府ノ代表間ニ會談開催セラレ日本政府ヨリ討議ノ基礎トシ提案提出セラレタリ右提案ノ大部分ハ警察事項ニ關シ天津英國租界當局ト北支駐屯日本軍トノ間ニ「テロ」行動ヲ抑壓シ治安ヲ維持スル目的ノ爲ノ一層緊密ナル協力ヲ規定シタルモノニシテ右提案ハ租界ノ行政保全ヲ害スルコト無ク一般ニ上海ニ於テ既に施行セラレ居ル慣行トモ合致スルモノナルヲ以テ英國政府ハ若干ノ細目ノ最後の取極ヲ條件トシ協定成立ニ向ヒ相當ノ進捗ヲ爲シタルモノナリ

五、警察事項ニ關スル提案ノ外日本政府ハ英國官憲ヲシテ租界内ニ於ケル法幣ノ使用禁止ノ規則ヲ強行セシメ及天津租界ヨリ若干ノ準備銀ノ搬出ヲ包含スル諸提案ヲ提出セリ英國政府ハ之等提案ノ範圍ガ純然タル天津局地問題ノ範圍ヲ逸脱シ居リ且英國政府ノミナラズ或ル他ノ政府モ

其ノ見解ヲ既ニ日本政府ニ通報シタル爲替貿易ニ對スル取締措置ヲモ包含スル北支ニ於ケル他ノ經濟金融狀況ノ現實ノ事態ニ關聯スルモノナルコトヲ直チニ觀取シタルモノナリ狀況ノ慎重ナル研究ノ結果英國政府ハ自ラ望ムトスルモ第三國ノ地位ニ影響ヲ與フヤモ計ラレザル二國間ノ協定ヲ其ノ承諾無シニ締結スル能ハザルコト明白トナレリ右理由ニ基キ英國政府ハ第三國ノ權益ヲ害スルガ如キ斯ル性質ノ事項ニ關スル如何ナル提案ヲモ單獨ニ提示シ又ハ受諾スル能ハズトノ結論ニ達シ日本政府ニ對シ其ノ提出シタル經濟關係提案ニ關スル討議ハ英國政府ノ見解ニ依レハ純然タル日英兩國間ノ基礎ノ上ニ爲スモ何等有益ナル結果ニ到達スル可能性無キヤニ認メラルル旨通報セリ然レドモ英國政府ハ日本政府ガ希望スル場合ニハ凡テノ關係當事者ノ權益ガ保障セラルル條件ノ下ニ之ヲ新タニ審議スル用意アルコトヲ表示セリ右目的ノ爲英國政府ハ關係第三國ト協議シ其ノ見解ヲ顧慮スル必要アルモノナリ

六、英國政府ハ提起セラレタル問題ヲ放置セントスル希望ヲ有スルモノニアラズ且支那ニ於ケル現在ノ紛爭ノ終局的

解決ノ爲充分討議スルヲ要スルヲ認識シ居ル旨日本政府ニ對シ通報セリ英國政府ハ既ニ日本政府宛一月十四日附ノ書翰ニ於テ條約ヲ永久的ノモノト認メ居ラズ且現存條約ノ改正ニ關シ日本政府ガ執ルベキ凡テノ建設的提案ヲ考慮スル用意アル旨明カニセリ然レドモ英國政府ハ九國條約及支那ノ狀態ヲ規定スル他ノ諸條約ノ凡テノ關係國ガ其ノ見解ヲ表示シ且關係當事者凡テニ對シ公正ナル解決ニ寄與スルコトヲ得シムルコト必要ナリト思考スルモノナリ

編注 本文書の原文(英文)は省略。

(付記二)

天津問題ニ關スル加藤公使、「クレーギー」大使

會談要旨

(昭和一四、八、一九 亞一)

八月十九日午後二時先方ノ求メニ依リ外務次官官邸ニ於テ加藤公使「クレーギー」大使ト會談セリ要旨左ノ通

「クレーギー」大使

昨日手交セル英國政府ノ文書ニ依ル申入ハ英國側ニ於テ公表スルコトヲ希望シ居ルコトハ昨日申上ケシ通りナルカ日本側ニ於テハ此ノ際公表ハ面白カラストノ御意見ナリシ故其ノ旨本國ニ電報シ置キタルカ本國ニ於テハ國內ノ情勢上如何ニシテモ該文書申入ノ主要點タケニテモ之ヲ公表スルコト絶對ニ必要ナリトノ意見ニテ結局別紙ノ如キモノヲ明日公表スルコトニナリ居レリ

トテ單ニ參考ノ爲ニ公表文ノ寫ヲ手交セリ

加藤公使
昨日モ申述ヘシ通り英國側ニ於テ是非共此ノ種公表ヲナサル以上日本側ニ於テモ此ノ内容ニ付テ意見ヲ異ニスル點ハ之ヲ公表シナケレハナラス英國側ノ公表ト相對應スルカ如ク當方ニ於テモ公表スルコトトナルヘシ

「クレーギー」大使

日本側公表文ノ「アドヴァンス・コピー」ヲ戴ケサルヤ加藤公使

其ノ様ニ手順整ハハ御送付致スコトニ何等異存アルモノニ非ス

又昨日御話アリタル會議休會ニ關スル共同「コンミュニ

ケ」ノ件ハ政府ニ於テ協議ノ結果此ノ際此ノ種「コンミュニケ」ヲ出ササル方適當ナルヘシト決定シタルヲ以テ其ノ旨御承知願度シ當方ニ於テハ若シ新聞等ヨリ質問アル場合ハ會合ハ暫時開キ得サルヘシトノ趣旨ヲ單ニ話スニ止メ置ク考ナリ

尙昨日ノ會談中ニ申傳ヘ置キタル日本側主張即チ經濟問題ヲ切離シ治安ノ問題ノミヲ以テ天津事件ヲ終結セシメントノ英國政府ノ主張ニハ全然同意出來サルコト經濟問題ニ關シ單ニ日英兩國政府間ノ話合ノミナラス關係第三國トノ協議ヲ恰モ日英兩國會談ノ前提條件トスルカ如キ英國側ノ考方ニ對シテモ亦全然贊成出來ス日本側トシテハ何處迄モ當初ノ方針タル日英兩國間ニ於テ兩國ノミニ關係アル事項ニ付先ツ協議ヲ遂クヘシトノ方針ハ絶對ニ變更スル能ハス又兩國間ニ於テ協定セラレシコトカ直ニ第三國ヲ拘束スルモノニ非サルハ自明ノ理ニシテ日本側ニ於テ別途第三國ト協議スル必要アルモノニ付テハ適當ノ時期方法ニ於テ當該第三國ト協議スルノミテアリ今日ノ際ハ英國側ニ於テ其ノ權内ニ屬スル事項ニ付日本側ノ申出ニ對スル英國政府ノ回答ヲ發セラルルヲ求メ居ルニ過キス此ノ方針ハ如何ナル場合

ニ於テモ變更シ得ルモノニ非ス

トノ趣旨ヲ繰返シ説明シ置キタリ

「クレーギー」大使

本日參考ノ爲御渡シセル公表文中九國條約ニ關スル部分ハ此ノ際公表セサル方可ナルヘシ又公表文中段ニアル第三國トノ協議ノ必要ヲ論シ居ル部分中 Should the Japanese Government ニ々ナル一句ハ之ヲ削除スル方適當ナルヘシトノ趣旨ヲ申送りヤル積リナリ
尙明日曜日出發日光ニ出向ク豫定ナリ

編 注 省略。本文書付記一の和訳文参照。

1593

昭和14年8月19日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

日英東京會談における英國側態度硬化の理由
につき觀測報告

ロンドン 8月19日發
本省 8月20日着

第九五九號(極秘)

東京交渉ニ關シ英國ノ態度ハ米國ノ條約廢棄通告ニ依リ重要ナル影響ヲ受ケタルハ勿論ナルカ其ノ他

一、日本及支那ニ於ケル極端ナル排英運動及所謂侮辱行爲ニ付テハ英國人ノ自尊心ヲ傷ケ想像以上ニ日本ニ對スル反感ヲ高メ右カ與論ニ反響シテ政府ニ於ケル日英親善政策ヲ牽制シ居ルコト

二、日本ニ對スル讓歩(東京取極及犯人引渡等)カ之又豫想以上ニ世界特ニ東洋ニ反響ヲ與ヘ之カ樞軸國ノ宣傳ニ依リ英國ノ權威ノ毀損ニ利用セラレ居ルコト

三、英國ノ讓歩ニ對シ日本ノ好意期待薄ナルコト等ヨリ影響セラレ居ルハ事實ナリ然レトモ英國政府筋ハ何トカシテ東京交渉ヲ成功セシメンコトヲ希望シ居ルハ又事實ニシテ銀問題ニ付テハ讓歩ノ意アル旨間接ニ聞込居レル次第アリ本電ハ貴電第二四五號接到前ノ起草ナルモ何等御參考迄

1594

昭和14年8月20日

有田外務大臣より
在英國重光大使宛(電報)

日英東京會談におけるわが方の最後の態度決

定のため天津租界問題に関する英国側意向確

認方訓令

付記 昭和十四年八月二十日、東亜局第一課作成

「天津問題ニ關シ加藤公使「ドツツ」在京英
國大使館參事官會談ノ件」

本省 8月20日後4時發

第二四八號(至急)

往電第二四七號(北京天津宛合第一九六二號)ニ關シ
右往電英國政府ノ見解ニ對スル我方最後の態度決定ノ爲左
記諸點ニ付直接英國政府當局ノ眞意ヲ確カムルト共ニ之ニ
關聯シ英國政府ノ本問題ニ關スル一般見解ヲ適確ニ突止メ
度ニ付至急接觸セラレ結果同電アリ度

一、從來「クレীগー」大使ノ説明ニ依リ我方ハ經濟問題ニ
關スル我方提案ニ基キ英國ハ第三國ト意見交換ヲナシ居
リ右終了次第我方提案ニ付英國政府ヨリ何分ノ意見同示
シ來ルモノト豫期シ居タル次第ナルカ今次冒頭往電英國
政府見解ニ依レハ右トハ全然異ナルヤニ解セラルル處
(イ)英國政府ハ我方提案ノ經濟問題ニ關シテハ今次日英會
談ニ於テ天津問題ノ一部トシテ之ヲ取上クル意思ナキ

モノナリヤ

(ロ)假令之レヲ取上クルモ第三國ヲ加ヘタル會議ニ於テノ
ミ之ヲ討議セントスルモノナリヤ

ニ、クレীগー大使説明ノ如ク目下我方ノ經濟問題提案ニ付
英國政府ニ於テ米佛諸國ト協議中ニテ其内右提案ニ對ス
ル何分ノ意見同示アルモノトスルモ第三國トノ協議ノ爲
メニ長日月ヲ要スルカ如キコトナラハ其間双方ノ希望
セサルカ如キ事態發生スルコトナキヲ保セサルノミナラ
ス日本國內事情(國內輿論及現地情勢等)モ遷延ヲ許ササ
ルモノアルニツイテハクレীগー大使説明ノ如シトスレ
ハ英國政府ニ於テ第三國トノ協議ヲ終ヘ我方トノ交渉再
開ニ至ルハ凡ソ何日頃ト期待シウルヤ

三、尙英國政府見解中「英國政府ハ一切ノ關係當事者ノ利益
カ保障セラルルカ如キ取極カ爲サレ得ル條件ノ下ニ經濟
問題ヲ新ニ審議スル用意アリ」ト述ヘアルハ具体的ニ如
何ナルコトヲ豫想シ居ルモノナリヤ

尙冒頭往電末段ノ治安問題ト經濟問題トヲ引離サントスル
英國側提案ハ我方ニ於テハ既ニ屢々加藤公使ヨリ「クレー
グー」大使ニ對シ明カニシタルカ如ク到底受諾スル能ハサ

ルモノナリ

北京、天津、上海ニ轉電セリ

(付記)

天津問題ニ關シ加藤公使「ドヅ」在京英國大使館

參事官會談ノ件

(昭和一二、八、二〇 亞一)

八月二十日午後四時「ドヅ」在京英國大使館參事官加藤公使ヲ來訪シ一昨日ノ英國側提案ニ對シ日本側ニ於テ明瞭ヲ缺ク點アリト申出ラレタル數點ニ關シ本國政府ノ眞意ヲ質セシ處本日別紙ノ如キ回訓到達セシニ依リ「クレীগー」大使ヨリ直ニ御渡シスルヤウ命セラレシヲ以テ持參セリト別紙(甲)號ヲ手交シタリ加藤公使ニ於テ一讀ノ上別ニ改メテ説明ヲ求ムルコトモナカリシヲ以テ其ノ儘受取り置キタルカ其ノ際加藤公使ヨリ實ハ本日當方ヨリモ重光大使ニ對シ英國側申出ノ眞意不明ナル點若干ニ付直接英國政府ノ意向ヲ問合スヤウ電報ヲ發シ置キタルカ其ノ問合要目ヲ一ツ書キシテ「クレীগー」大使ニ參考迄ニ御送付致シ度シト考フルヲ以テ今晚若クハ明早朝ヲ御屆ケスヘキニ依

リ可然大使ニ傳達セラレ度シト述ヘ置キタルカ八月二十一日午前別紙(乙)號^{省略}ヲ英國大使館ニ送付シ置キタリ

別紙甲號

昭和十四年八月二十日(亞一)

天津租界問題ニ關シ八月二十日在京英國大使館「ドヅ」參事官ノ加藤公使ニ手交シタル書物要譯文

英國政府ハ若シ日本政府カ經濟金融問題ヲ第三國ト共同シテ又ハ個別的ニ討議スルヲ承諾スルニ於テハ右問題ヲ再ヒ審議スル用意アルヲ明カニセリ

英國政府ハ現在討議セラレ居ル通貨及銀ノ問題ニ關シ必スシモ凡テノ九國條約國ト協議スルコトヲ提議スルモノニアラス但シ日支事件ノ最終的解決ハ九國條約及支那ニ對スル關係諸國ノ態度ヲ規定スル他ノ諸條約ノ締約國ノ受諾シ得ヘキモノナルコトヲ要ストスルモノナリ

英國政府ノ目的ハ日本政府ニ對シ經濟問題ノ討議ハ單純ナル日英兩國間ノ基礎ノ上ニ繼續セラレハ到底有益ナル結果ヲ齎ラササルモノニシテ且英國政府ノ決定ニ照シ之等ノ問題ヲ將來討議スル爲最モ適當ト思考スル手續ヲ指示スルコ

トヲ日本政府ニ委ネタルモノナルコトヲ表示セントスルモノナリ

1595

昭和14年8月21日

日英東京会谈の経緯および日本政府見解に關する外務省発表

天津事件(日英會談ノ經緯ト帝國政府ノ見解)

昭和十四年八月二十一日帝國外務省發表

一、今次日英會談ハ元來英國側ノ希望ニ基キ開催セラレタルモノナル處帝國政府ハ先ツ天津問題ノ背景ヲ爲ス一般問題ニ付英國政府ノ了解ヲ取付クルノ要アリト認メ會談ノ當初ニ於テ右ニ關シ交渉ノ結果客月二十二日一般原則ニ關スル協定ノ成立ヲ見ルニ至リタルコト曩ニ發表セラレタル通りナリ。

二、右一般原則ニ關スル協定ノ成立ニ次テ會談ハ天津ニ於ケル具體的諸問題ノ折衝ニ入りタリ而シテ右折衝ニ於テ帝國政府ノ要求セル所ハ警察及經濟ニ關スルモノナルモ要スルニ何レモ現地治安維持ノ強化竝ニ軍ノ生存上必須ノ

事項ニ屬スルモノニシテ又英國側ノ協力ヲ要請スル點ハ何レモ素ヨリ其ノ權限内ニ於テ爲シ能フ所ニ屬スルコト言フ俟タス從テ右要求事項ノ性質カ恰モ本件會談ノ範圍外ナルカ如ク解スル事ノ不當ナルハ勿論日英兩國間限りノ取極ノ對象ト爲シ得ストスルカ如キモ何等理由ナキ所ナリ例ヘハ通貨及現銀問題ニ關スル要求ニ付テ言ヘハ帝國政府ノ英國政府ニ要求シ來レル所ハ法幣カ依然在天津英租界内ニ流通シ居ル結果不逞分子カ之ヲ利用シ租界ノ内外ニ於テ經濟攪亂行爲ヲ行ヒ治安ヲ亂シ居ル現狀ナルニ付之カ防止ノ爲英國側ニ於テ出來得ル限りノ措置ヲ講セラレ度シト言フニ止マル一方現銀問題ニ關シテモ之カ搬出ニ付キ英租界當局ニ於テ何等干涉セサルヘキ旨英國政府ニ要求シ居ルニ過キス何レモ日英間話合ノ對象トナリ又天津關係地方問題ナルコトハ論議ノ餘地ナク右カ日英間ニテ取極メ得ストシ又ハ局地的性質ヲ有セストスルハ理由ナシ。蓋シ今次會談開催ニ付テノ英國側申出ヲ受諾スルニ當リ帝國政府ハ其ノ提案カ當然現地軍ノ存立ニ關スル軍事的、政治的及經濟的要求ニ關係ヲ有スヘキコトヲ明示シ置キタル次第ナリ。英國政府モ右了解ノ下ニ

會談ニ入りタルモノナルノミナラス客月二十七日經濟問題カ始メテ具體的ニ日英代表間ニ討議セラレタル際日本代表ヨリ右趣旨ヲ重ネテ英國代表ニ傳達セルニ英國代表モ異論ナク進ンテ八月一日經濟問題小委員會ノ開催ニ應シ具體的審議ニ入レル次第ナレハ右ニ徴スルモ英國政府ニ於テ最初ヨリ所謂經濟問題ヲ除外スルノ意向ナカリシハ明白ナリ。

三、尙英國政府カ本問題ヲ抛置シ之カ解決ヲ遷延セントスルモノニハ非スト述ヘ乍ラ問題ノ解決ヲ日支事變ノ最終的措置ニ關聯セシメムト主張シ居ルハ明カニ前後矛盾セルノ言辭ナリト言フヘシ又其ノ發表ノ末段ニ於テ九國條約ヲ援用シ居ルモ同條約ニ關スル帝國政府ノ見解ハ既ニ機會アル毎ニ明示セル所ニシテ帝國政府トシテハ九國條約ニ關スル論議カ如何ニシテ天津問題ノ處理ニ役立チ得ヘキ次第ナリヤ了解ニ苦シム所ナリ英國政府ノ眞意カ本件會談ニ第三國ヲ介入セシメ交渉ノ有利ナル妥結ヲ圖ラントスルモノナルニ於テハ右徒ラニ本問題ノ解決ヲ遷延且複雑化セシムルニ役立つノミニシテ帝國政府ノ到底容認シ得サル所ナル點ヲ指摘セサルヘカラス。

1596

昭和14年8月21日

在英国重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

日英東京會談に関するわが方発表を英国各紙
掲載について

ロンドン 8月21日後発

本省 8月22日前着

第九六八號

一般的情報

東京會談ニ關スル日本政府ノ聲明ハ二十日夕同盟ニ入電アリタルニ依リ直ニ當地新聞ニ發表方取計置キタル處二十一日ノ各紙ハ英國側聲明ト共ニ我方聲明ノ要領ヲ掲載シ居レリ

1597

昭和14年8月23日

有田外務大臣より
在英国重光大使、在天津田代総領事他宛(電報)

日英東京會談の善後措置方針について

本省 8月23日発

合第一九九七號(極秘、至急)

北京、天津宛往電合第一九六二號及英宛往電第二四七號ニ
關シ

二十二日陸軍側ト協議ノ上天津租界問題ニ關スル日英交渉
處置要領左ノ通申合セタリ

一、今次英國政府申出ニ對シ帝國政府トシテハ所謂治安問題
ト經濟問題トヲ切離シ此ノ際治安問題ノミニ付日英間ニ
協定ヲ締結シ經濟問題ニ關シテハ第三國ト共同ニ又ハ各
別ニ協議ヲ行フヘシトスルコトニハ不同意ナル旨ヲ正式
ニ文書ヲ以テ回答スルモノトス

二、前項ノ措置ヲ執リタル後英國側力既定方針ニ基ク我方主
張ニ對シ同調シ來リ我方要求ヲ容ルルコトヲ認定シ得タ
ル場合ノ外東京ニ於ケル現地側交渉ハ之ヲ再開セサルモ
ノトス

三、帝國ノ對英態度ハ獨自ノ見地ニ基キ英國ノ動向ニ牽制セ
ラルルコトナキハ勿論ニシテ例ヘハ天津ニ於ケル檢問檢
索及支那ニ於ケル排英運動等ニ對スル帝國政府現在ノ方
針ハ今次英國政府ノ執リタル措置ニ依リ特ニ變更セラル
ルコトナキモノトス

尙前記處置要領ノ英國政府ニ對スル帝國政府ノ回答交付

ヲ期トシ外務側現地代表者ハ何レモ夫々ノ任地ニ歸還セシ
ムルモノトシ又處置要領ニ、ノ東京ニ於ケル現地側交渉ノ再
開カ適當ト認メラルルニ至リタル場合ニ於テハ改メテ現地
代表者ヲ東京ニ招致スルコトトナルヘシ

追而前記帝國政府ノ回答ハ英宛往電第二四八號ニ對スル回
電ヲ俟ツテ發送スル筈ナリ
在支各總領事及香港ヘ轉電セリ

~~~~~

1598

昭和14年8月23日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界問題英國側意向に関する同国外務省  
極東部長代理内話について

ロンドン 8月23日後発

本省 8月24日前着

第九七九號(極秘)

貴電第二四八號ニ關シ(英ノ最後の見解問合ノ件)

二十二日岡本ヲシテ極東部長代理ヲ往訪(部長ハ病氣缺勤  
中)セシメ貴電ノ趣旨ニ基キ打解ケテ英國政府ノ意嚮ヲ篤  
ト質サシメタル所左ノ通り

一、英國政府ノ眞意ハ經濟問題ニ關シテモ出來得レハ何等カノ解決ニ到達シタキ希望ヲ以テ「ハ」外相自ラ事態ノ内容ヲ研究シ總ユル努力考慮ヲ爲シタルモ遺憾乍ラ米佛トノ關係ニ於テ此ノ際英國カ日本ト單獨ニ本問題ニ付解決ヲ圖ルヲ得ストノ結論ニ到達シタル次第ナリ

既ニ米佛兩政府ヨリハ日本政府ニ對シ經濟問題ニ關シテハ關心ヲ有スル旨ヲ申入レ居リ今回ノ會談當初ニ於テ有田外相ヨリ「クレーギー」大使ニ對シ日英間ニ先ツ話合ヲ爲セハ米佛モ之ニ追隨スルコトトナルヘシト語ラレタルカ不幸ニシテ其ノ後ノ事情ハ右ノ通りニハナラサリシ次第ナリ

二、第三國ヲ加ヘタル會議ニ於テノミ右問題ヲ討議セントスルモノナリヤトノ質問ニ對シテハ確答シ得ス英國政府ノ見解トシテハ既ニ事態以上ノ如クナル上ハ米佛ヲ納得セシムルコトヲ要シ日本側ニ於テ個別的ニ話合ヲ爲サルルコトモ考ヘラルヘク英國政府トシテハ何等之ニ異議無シ  
三、「クレーギー」大使カ十七日加藤公使ニ對シ經濟問題ヲ治安問題ヨリ分離セントスル曩ノ申出ヲ撤回シ一括妥結ニ達シタキ旨ヲ述ヘタリト言フ件ハ英國政府トシテハ了

解シ難シ蓋シ經濟問題ニ付多大ノ困難アル事情ハ前以テ同大使ニ充分理解セシメ置キタル次第ナレハナリ經濟問題ニ關スル日本側提案ニ付英國政府ニ於テ第三國トノ協議ヲ終ヘタル上ハ何分ノ意見ヲ回示スヘシト「クレーギー」大使カ説明セリトノ點モ以上ノ説明ニテ御察シノ通り最早事態異ルコトトナレル次第ナリ英國政府ハ米佛ト今尙本問題ニ付協議中ナル次第ニアラス(米國ハ「コンサルト」セラルコトヲ喜ハスト答フ)

四、貴電第二四八號ノ三ノ點ニ關シテハ英國政府トシテハ特定セル意嚮ナシ(no fixed idea)一切ノ關係當事者トハ日英(米)佛四國ヲ意味シ其ノ他ノ國ハ何等ノ申出ヲ爲シ居ラス英國政府トシテハ條約上ノ義務及 impartiality ニ反セサル解決方法アラハ解決ニ到達スルコトヲ衷心希望シ居ル次第ニシテ必スシモ四國會議ヲ豫想セス非公式個別的會談ニ依ルモ可ナルヘク此ノ際日本側ヨリ何等カノ考案アラハ寧口之ヲ歡迎スル次第ナリ



1599

昭和14年8月26日  
有田外務大臣より  
在英國重光大使、在天津田代総領事他  
宛(電報)

天津租界問題に関する八月十八日付英國回答  
に対しわが方見解をクレイギー大使へ手交に

ついて

付記一 右わが方見解

二 右わが方見解和訳文

本省 8月26日発

合第二〇四二號(極秘)

往電合第一九七號ニ關シ

二十五日加藤公使ヨリ「クレイギー」大使ニ對シ帝國政府  
ノ正式見解トシテ冒頭往電ニノ趣旨ヲ書物ヲ以テ回答セリ  
(原文郵送ス)

本電宛先北京、天津、英

上海へ轉電セリ

(付記一)

1. The Japanese Government have carefully

examined the view of the British Government towards the present Anglo-Japanese conversations expressed in the note which Sir Robert Craigie handed to Mr. Kato on August 18th.

2. Before acceding to the British proposal of starting negotiation in Tokyo with a view to settling various problems connected with the present situation in Tientsin, the Japanese Government pointed out, inter alia, to the British side that the existing state of affairs in Tientsin has its origin in the various complicated circumstances and that the proposal to be made by the Japanese Government would naturally have close bearing on military, political and economic requirements pertaining to the security of the Japanese military forces on the spot. As the British Government are well aware, the British side entered into the present conversations, fully knowing the above attitude on the part of the Japanese Government.

3. The Japanese Government, considering it as an essential condition for the settlement of the Tientsin

problem to reach first of all an understanding with the British Government regarding the general question which form the background of the Tientsin situation, made a proposal regarding the general principle at the outset of the present Anglo-Japanese conversations, which was accepted by the British Government with the result of an agreement of July 22nd. There leaves no room for doubt, therefore, that the Tientsin problem was expected to be solved in the light of the letter and spirit contained in that agreement.

4. In the course of detailed discussion of the Tientsin problem, the Japanese Government made proposals on the so-called police and economic matters, requesting the cooperation on the part of the British authorities. They all relate to more efficient maintenance of peace and order on the spot and to the existence and security of the Japanese forces in China. It would also be futile to add that British co-operation which the Japanese Government asked for was confined to that on matters which fell entirely within the

British competence.

5. In view of the above, the Japanese Government fail to concur with the British contention that some of the proposals made by the Japanese Government such as those relating to silver and currency in the British Concession in Tientsin are entirely beyond the scope of the present Anglo-Japanese conversations and that they could not, by nature, be made the subject of any bilateral agreement purely on Anglo-Japanese basis. The communications which the Japanese Government received from the Governments of the United States and France on these matters are of a different purport from what was indicated by the British side. The Japanese Government can in these circumstances see no necessity of entering into negotiations with the United States and French Governments.

6. While contending on one hand that they are not attempting to delay the settlement of the issues by shelving the Japanese proposals, the British Government persist on

the other that the Tientsin problem must necessarily be solved in a final settlement of the present China Incident. This seems to the Japanese Government to be somewhat contradictory. The British Government have also referred to the question of modification of the Nine-Power Treaty etc., which treaties, in the opinion of the Japanese Government, have no bearing on the present conversations and are clearly outside the purview of discussions. The Japanese Government are unable to see of what use any discussions conducted on the basis of the Nine-Power Treaty could be for the settlement of the Tientsin issues.

7. The British Government have proposed to conclude an agreement only upon the so-called police matters separately from economic matters. But as has repeatedly been explained by the Japanese delegate, the Japanese proposals regarding economic matters are of such nature as is indispensable to the stabilization of the life of the people in North China and to the prevention of anti-Japanese activities to disturb the economic structure of the

region. The proposals on economic matters, being so important for the maintenance of public order, are inseparable from the proposals on police matters.

8. For these reasons, the Japanese Government are unable to agree to the British proposal that third Powers should be invited to take part, jointly or separately, in the discussion of the Japanese proposal for British cooperation in the so-called economic questions which form part of the agenda of the present conversations, namely, questions regarding the currency and silver reserve in the British Concession in Tientsin. Nor are the Japanese Government unable to see their way to agree to the British proposal to set aside the so-called economic questions and conclude an agreement on the police matters only.

9. It must have been immediately clear that the aforesaid contention of the Japanese Government is nothing but a logical conclusion to be reached from the object of the present conversations and the nature of the Japanese proposals. It is therefore to a profound regret of

the Japanese Government that the British Government should have proposed the participation of third Powers or the separation of the so-called police matters.

(付記1)

八月二十五日加藤公使ヨリ「クレীগー」大使ニ

手交セル書物

一、帝國政府ハ八月十八日「クレীগー」大使ヨリ加藤公使ヘ手交アリタル文書ニ依リ表明セラレタル日英會談ニ關スル英國政府ノ見解ニ對シ慎重審議ヲ加ヘタリ

二、帝國政府ハ曩ニ天津ニ於ケル現下ノ事態ニ關聯スル各種問題ノ解決ヲ計ル爲東京ニ於テ交渉ヲ行フコトト致度キ旨ノ英國側申出ヲ受諾スルニ方リ豫メ英國側ニ對シ右ニ關スル帝國政府ノ態度ヲ明カニシタルカ其ノ中ニ於テ天津ニ於ケル現下ノ事態ハ其ノ根源ニ於テ諸種ノ複雑ナル事情ニ胚胎スルモノナルコトヲ特ニ指摘シ且帝國政府ノ行フ提案ハ當然現地帝國軍ノ存立ニ關スル軍事的、政治的及經濟的要求ニ關係ヲ有スヘキコトヲ明白ニシ置キタル次第ニシテ英國側ハ之ヲ了承ノ上今次會談ニ入りタル

モノナルコト英國政府ノ了知セラルル通ナリ

三、帝國政府ハ今次日英會談ノ當初ニ於テ先ツ天津問題ノ背景ヲ爲ス一般問題ニ付一定ノ了解ニ到達スルコトカ天津問題自体ノ解決上ヨリスルモ不可缺ノ要件ナリト認メ一般原則ニ關スル提案ヲ爲シタル處右ニ關シテハ七月二十二日協定ノ妥結ヲ見タリ而シテ右一般原則ニ關スル協定ノ文言及精神ハ當然ニ天津問題自体ノ解決ニ付テモ其ノ指導原理ト爲ルヘキモノナルコト疑ヲ容ルルノ餘地ナキ所ナリ

四、帝國政府ハ天津問題ノ具體的折衝ニ於テ所謂警察的事項及經濟的事項ニ關シ英國側ノ協力ヲ要請セル提案ヲ爲シタル處右事項ハ孰レモ現地治安維持ノ強化及軍ノ生存上必須ノ事項ニ關スルモノニシテ又右ニ關シ英國側ノ協力ヲ期待セル所ハ素ヨリ英國側ノ權限内ニ於テ執リ得ヘキ措置ノ範圍ヲ出テサルコト言ヲ俟タサル所ナリ

五、前述ノ次第ニ鑑ミ英國政府カ我方提案中ノ或ルモノ例ヘハ天津英租界内ニ於ケル通貨及現銀ニ關シ英國側ノ協力ヲ要請セル提案ヲ以テ恰モ今次日英會談ノ範圍外ノ問題ナルカ如ク解シ又ハ日英兩國間限りノ取極ノ對象ト爲シ



得サルカ如キ性質ノモノナリト主張セラルルコトハ帝國政府ノ到底納得シ得サル所ナリ尙帝國政府カ本件問題ニ關シ米佛兩國政府ヨリ受ケタル申出ハ英國側ニ於テ指摘セラルルカ如キ趣旨トハ異ナルモノニシテ帝國政府トシテハ此ノ際特ニ右兩國政府ヲ相手トシテ交渉ヲ爲スノ必要ヲ認メサルモノナリ

六、英國政府カ一方ニ於テ日本側提案ノ問題ヲ放置シ之カ解決ヲ遷延セントスルモノニハ非スト稱シ乍ラ他方ニ於テ右問題ノ解決ヲ日支事變ノ終局的處理ニ關聯セシムルノ必要アリト主張セラルルコトハ前後矛盾ノ感ナキ能ハス且英國政府カ今次日英會談ノ討議ノ目的ト何等關係ナク從テ明白ニ今次會談ノ範圍外ナル九國條約等ノ改訂問題ノ如キヲ取上ケ論及セラレタルハ不可解ニシテ又帝國政府トシテハ九國條約ヲ基礎トスル論議カ如何ニシテ現下ノ天津問題ノ處理ニ役立ち得ヘキ次第ナリヤ了解ニ苦シム所ナリ

七、英國政府ハ日本側提案中所謂警察の事項ニ關スルモノト經濟の事項ニ關スルモノトヲ切離シ前者ニ付テノミ此ノ際日英間ニ協定ヲ締結センコトヲ提言セラレタル處日本

側提案ノ所謂經濟の事項ニ關スルモノハ何レモ北支民衆ノ生活ノ安定乃至經濟攪亂行爲ノ取締上必須ノ事項ニ屬シ畢竟現地治安維持ノ強化上警察の事項ニ關スルモノト不可分ノ關係アルモノナルヲ以テ兩者ノ分離處理ハ到底不可能ナルコトハ今日迄ノ會談ニ於テ我方代表ヨリ既ニ屢々言明シ置キタル通ナリ

八、敍上ノ理由ニ基キ帝國政府ハ今次日英會談ニ於ケル議題ノ一部タル所謂經濟の問題ニ關スル提案即チ天津英租界内ニ於ケル通貨及現銀等ノ問題ニ關シ英國側ノ協力ヲ要請セル提案ノ討議ニ第三國ノ介入ヲ認メ第三國ト共同ニ又ハ各別ニ協議ヲ行フヘシトスルコトニハ到底同意スル能ハス又所謂經濟の問題ト警察の問題トヲ切離シ後者ニ付テノミ此ノ際日英間ニ協定ヲ締結スヘシトスルコトニ對シテモ遺憾ナカラ同意ヲ表スルヲ得サル次第ナリ

九、前項帝國政府ノ見解ハ今次日英會談ノ本來ノ主旨及我方提案ノ本質ヨリ見テ當然ノ歸結ニシテ今日ニ至リテ英國政府カ第三國ノ介入ヲ提言シ又ハ所謂警察の事項ノ切離ヲ主張セラルルカ如キハ帝國政府ニ於テ甚タ意ヲ得サル所ナルヲ附言セサルヘカラス

1600

昭和14年8月26日

有田外務大臣より  
在天津田代総領事宛(電報)

程暗殺事件容疑者の引取り方訓令

本省 8月26日後9時発

第三一四號(極秘)

往電第二九九號ニ關シ

二十五日加藤公使「クレীগー」ト面談ノ際「ク」ヨリ問題ノ四名ノ犯人ニ關シテハ其ノ後反對運動アリ上海英國領事裁判ニ出訴スルガ如キコトアリタルガ今般斯ル司法上ノ手續モ却下シ引渡方天津ニ訓令ヲ發シタル旨内話セリ  
就テハ右引取方御手配置キ相成度  
北京、上海、英へ轉電セリ

1601

昭和14年9月6日

在天津田代総領事より  
阿部外務大臣宛(電報)

程暗殺事件容疑者の引取り完了について

天津 9月6日後発

本省 9月6日夜着

第六七〇號

往電第六六一號ニ關シ

五日突然英工部局警察ヨリ地方法院ニ對シ午後五時工部局警察ニ於テ犯人四名ヲ引渡ス旨申越シタルニ付直ニ準備ヲ整ヘ地方法院係官外警官六名ニ憲兵隊太田少佐以下三名、當館員一名附添ヒ軍用「モーターボウト」ニ分乗引取ニ赴キタル處今次洪水ニ依ル交通困難ノ爲英租界ニ到着シタルハ約束ノ時間ヲ過クルコトニ時間半ニ及ヒタルカ(佛ヲ除ク各國領事トノ電話不通從テ交渉ニハ一々往復スルノ要アル處浸水地ハ船ニテ行キ更ニ陸行スル等長時間ヲ要ス)英工部局警察官二名該犯人ヲ引連レ特一區トノ境界ニ於テ我方ノ到着ヲ待チ受ケ居リ午後八時引渡ヲ了シタリ依テ直ニ支那側警察署ニ護送留置セルカ右犯人ハ更メテ支那側ヨリ憲兵隊ニ引渡シ軍法會議ニ掛クル筈ナリ  
北京、上海、英へ轉電セリ